

第6章 日常生活圏域ニーズ調査

I. 調査結果の概観

本報告書における認定状況の区分は、以下のとおりとなっている。

- ・要支援認定者 = 介護保険在宅要支援・要介護認定者調査のF5で「要支援1」、「要支援2」と回答した方。
- ・要介護認定者 = 介護保険在宅要支援・要介護認定者調査のF5で「要介護1」～「要介護5」と回答した方。
- ・二次予防対象者 = 基本チェックリストの集計で、二次予防事業の対象条件に該当した方（認定者を除く）。
- ・一般高齢者 = 認定者及び二次予防対象者に該当しない方。

図表における略記

- ・要支援認定者 ⇒ 要支援
- ・要介護認定者 ⇒ 要介護
- ・二次予防対象者 ⇒ 予防
- ・一般高齢者 ⇒ 一般

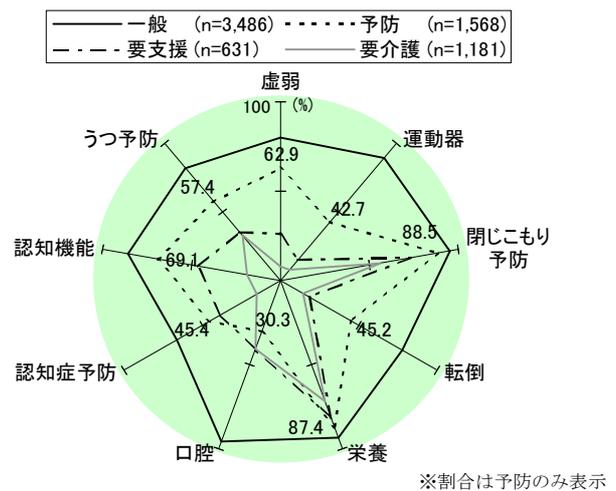
1 機能

(1) 項目別評価結果

生活機能の評価項目ごとの非該当者（リスクなし）の割合をみると、一般高齢者でその割合が最も高く、次いで二次予防対象者、要支援認定者、要介護認定者の順となっており、それぞれの生活機能のレベルを反映した結果となっている。

二次予防対象者選定の直接の条件になっていない、認知症予防、転倒、うつ予防、認知機能、閉じこもり予防については、二次予防対象者に比べて率は低いものの、一般高齢者の中にも該当者（リスク者）が相当数いることがわかる。

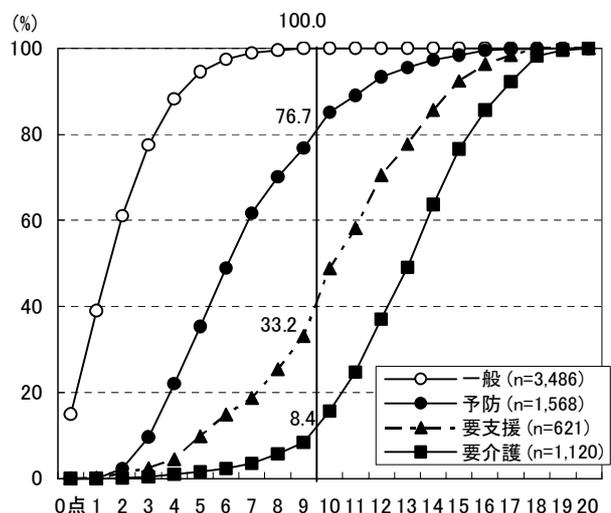
<図表>生活機能（非該当・リスクなしの割合）



(2) 総合指標

基本チェックリスト25問のうち、うつ予防に関する設問を除く20問について、各設問で該当となる回答をした場合を各1点として、その合計得点の分布を累積相対度数でみると、9点以下の割合は、一般高齢者が100%、二次予防対象者が76.7%、要支援者が33.2%、要介護認定者が8.4%となっている。

<図表>基本チェックリスト合計得点（累積相対度数）



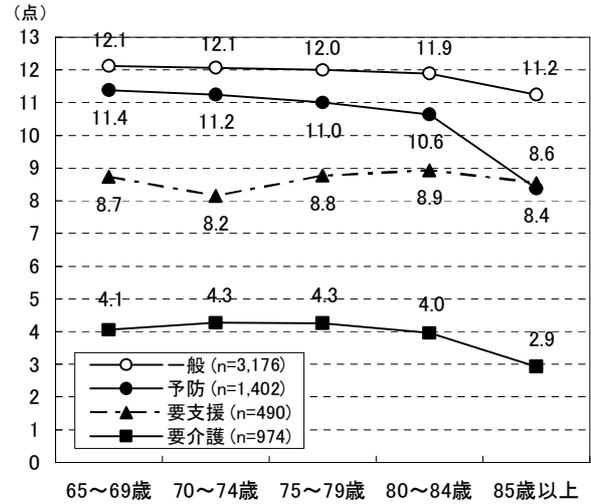
2 日常生活

(1) 老研式活動能力指標 (IADL)

高齢者の比較的高次の生活機能の指標として定着している老研式活動能力指標(13項目)について、その生活機能得点(平均)をみると、いずれの年代でも一般高齢者が最も高く、次いで二次予防対象者、要支援認定者、要介護認定者の順となっている。

年齢が上がるほどその得点は低下しているが、二次予防対象者でその低下幅が大きくなっている。

<図表> 認定状況別生活機能得点

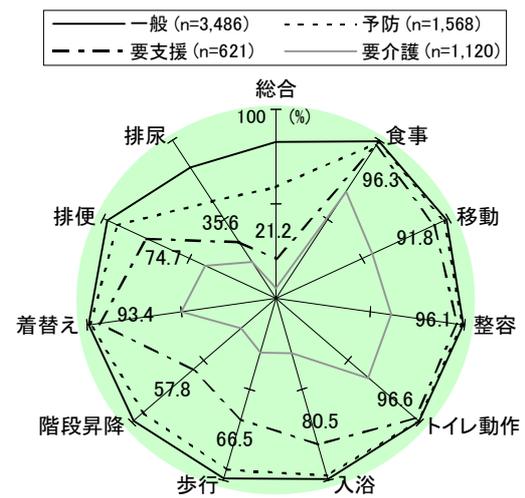


(2) 日常生活動作 (ADL)

高齢者の日常生活動作(ADL)の状況を見ると、「自立」と評価される者の割合は、いずれの項目でも一般高齢者が最も高く、次いで二次予防対象者、要支援認定者、要介護認定者の順となっている。

要介護認定者と二次予防対象者の中間に位置する要支援認定者についてみると、食事、移動、整容、トイレ動作については、いずれも自立の割合が9割を超えている一方、排尿、階段昇降、歩行についてはそれぞれ35.6%、57.8%、66.5%と低下しており、日常生活動作の中でも、比較的早い時期に低下するものとそうでないものがあることがうかがえる。

<図表> ADL (評価項目別自立者割合)



※割合は要支援のみ表示

3 健康・疾病

(1) 既往率

疾病の既往率の状況を見ると、要介護の原因となる脳卒中、心臓病、糖尿病、筋骨格の病気、外傷、認知症では、認定者の既往率が高くなっている。

要介護の原因疾病の中でも、脳卒中や認知症などは要介護認定者で既往率が顕著に高くなっている一方、筋骨格の病気では要支援認定者の既往率が最も高くなっており、要介護のレベルによって原因疾病の構成割合が異なっていることがわかる。

<図表> 疾病の状況 (既往症)

単位: %

疾病	一般	予防	要支援	要介護
高血圧	34.8	42.8	44.0	37.9
脳卒中	2.1	5.3	15.1	22.1
心臓病	9.1	15.6	21.7	18.3
糖尿病	9.7	16.5	15.1	17.8
高脂血症	10.1	11.0	10.1	6.3
呼吸器の病気	4.0	7.1	8.9	9.7
胃腸・肝臓・胆のうの病気	6.5	12.6	13.7	8.9
腎臓・前立腺の病気	6.1	9.2	9.7	10.4
筋骨格の病気	9.4	21.4	36.9	22.2
外傷	1.5	4.5	10.5	13.0
がん	3.7	5.9	5.6	6.5
血液・免疫の病気	0.8	1.9	1.9	1.3
うつ病	0.5	2.1	4.3	3.6
認知症	0.2	0.6	1.6	25.4
パーキンソン病	0.1	0.8	2.7	6.3
目の病気	13.5	21.5	29.3	19.6
耳の病気	4.7	10.4	12.7	8.8

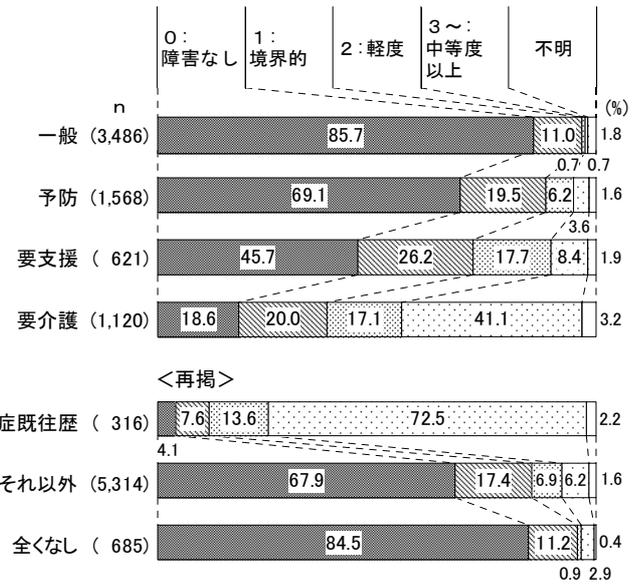
(2) 認知機能の障害程度

回答結果からCPS (Cognitive Performance Scaleの略。認知機能の障害程度の指標) に準じて評価される認知機能の障害程度区分の分布をみると、認知機能の障害ありと評価される者の割合が最も高いのは要介護認定者で78.2%、次いで要支援認定者が52.3%、二次予防対象者が29.3%、一般高齢者が12.5%の順となっている。

CPSで認知症の行動・心理症状がみられるのは3レベル以上といわれており、その割合は、要介護認定者で41.1%、要支援認定者で8.4%、二次予防対象者で3.6%となっている。

認知症の既往歴の有無別にこの評価結果の分布をみると、既往歴ありでは93.7%が、それ以外では30.6%が障害ありと評価されている。

<図表> 認知機能の障害程度別割合 (CPS)



II. 評価項目別の結果

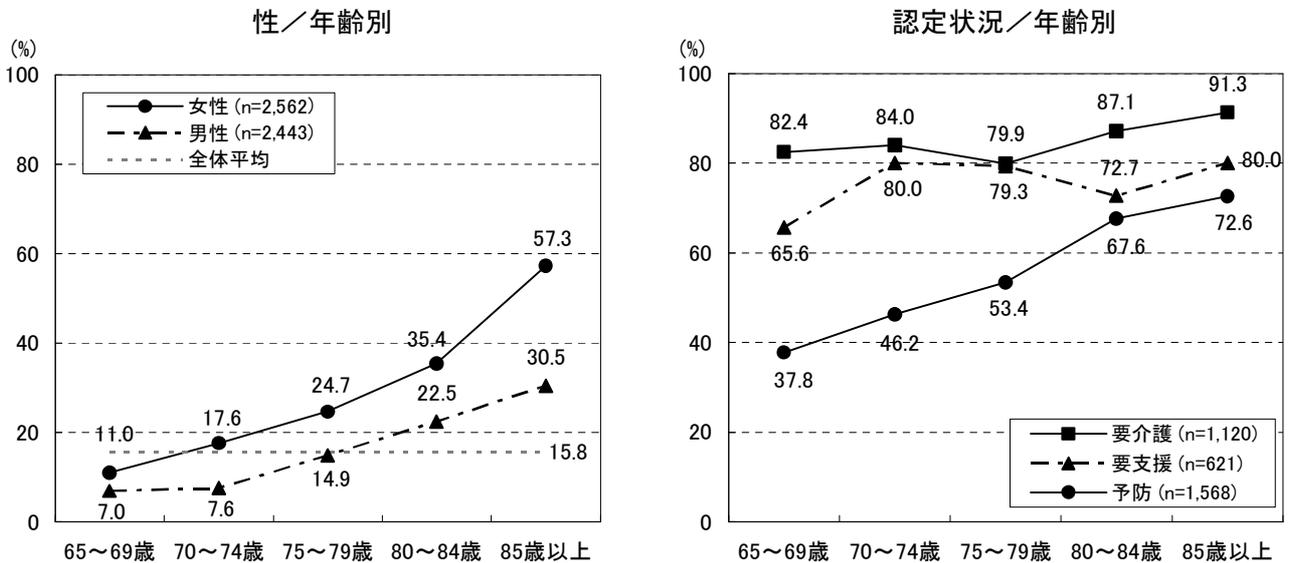
1 機能

(1) 運動器

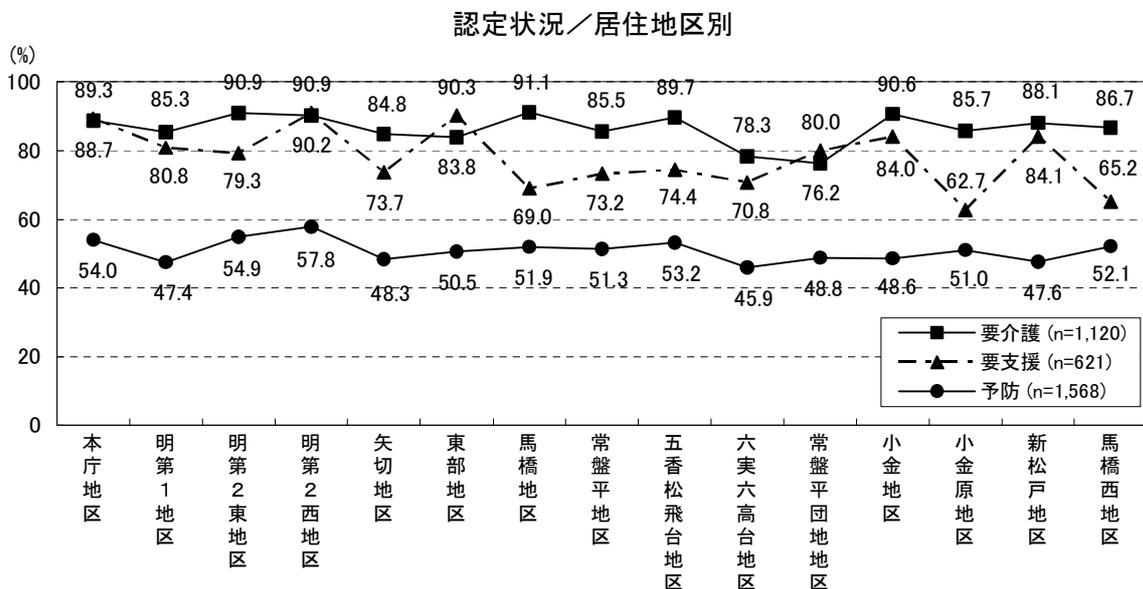
① 該当状況

- 基本チェックリストに基づく運動器の該当状況をみると、認定者を除く全体で15.8%、男性で11.2%、女性で19.9%が該当者となっている。性/年齢別でみると、男女ともに年齢が上がるほど該当者割合が高く、また、いずれの年齢でも女性が男性を上回っている。
- 二次予防対象者と認定者を比較すると、いずれの年齢でも要介護認定者、要支援認定者が二次予防対象者を上回っている。
- いずれの居住地区でも要介護認定者、要支援認定者が二次予防対象者を上回っている。

<図表> 該当者割合



※認定者を除く。



②回答状況

＜図表＞回答結果

単位：%

設問(該当する回答)	非認定者 (n=5,054)		認定者 (n=1,741)		差
	一般 (n=3,486)	二次予防 (n=1,568)	要支援 (n=621)	要介護 (n=1,120)	
1. Q1 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。 (いいえ)	29.7		84.4		54.7
	17.2	57.6	79.9	87.0	
1. Q2 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。(いいえ)	14.5		79.5		65.0
	3.8	38.1	72.9	83.1	
1. Q3 15分位続けて歩いていますか。(いいえ)	9.6		66.9		57.3
	3.3	23.5	48.6	77.1	
2. Q1 この1年間に転んだことはありますか。(はい)	20.5		52.2		31.7
	11.2	40.9	49.9	53.5	
2. Q2 転倒に対する不安は大きいですか。(はい)	41.1		84.5		43.4
	27.7	71.0	86.2	83.7	

(2) 閉じこもり予防

① 該当状況

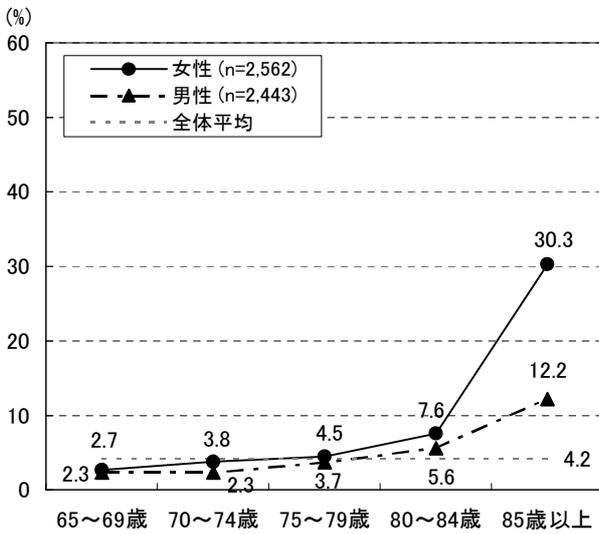
○基本チェックリストに基づく閉じこもり予防の該当状況をみると、認定者を除く全体で4.2%（男性3.3%、女性5.0%）となっている。性/年齢別でみると、男女ともに年齢が上がるほど該当者割合が高く、また、いずれの年齢でも女性が男性を上回っており、女性の85歳以上は30.3%と特になくなっている。

○認定状況別でみると、全体では二次予防対象者及び一般高齢者より認定者のほうが該当者割合が高くなっているものの、85歳以上では二次予防対象者のほうが要支援認定者よりも高くなっている。

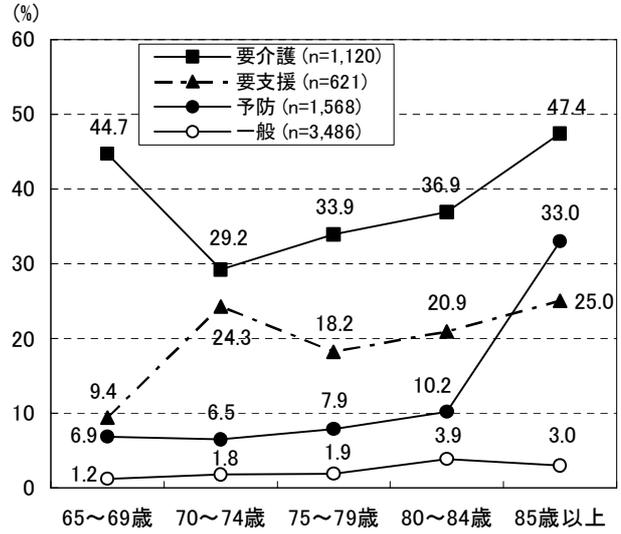
○ほとんどの居住地区で要介護認定者、要支援認定者、二次予防対象者、一般高齢者の順で該当者割合が高くなっている。要介護認定者は矢切地区で51.5%と特になくなっている。

<図表> 該当者割合

性/年齢別

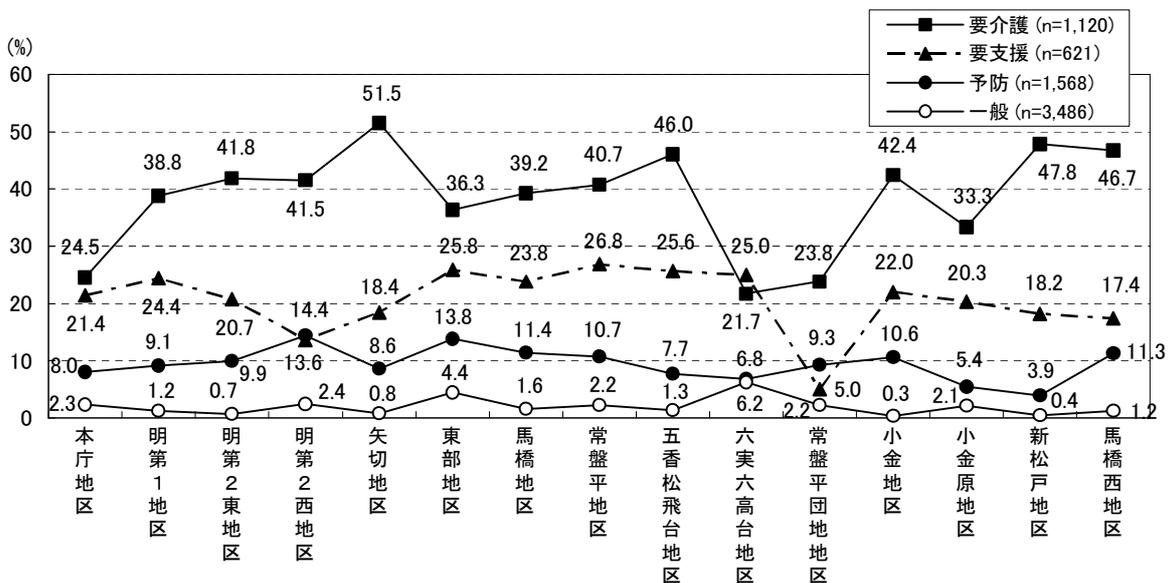


認定状況/年齢別



※認定者を除く。

認定状況/居住地区別



②回答状況

＜図表＞回答結果

単位：％

設問(該当する回答)	非認定者 (n=5,054)		認定者 (n=1,741)		差
	一般 (n=3,486)	二次予防 (n=1,568)	要支援 (n=621)	要介護 (n=1,120)	
1. Q5 週1回以上は外出していますか。(いいえ)	4.2		33.2		29.0
	1.8	9.4	21.6	39.6	

＜関連設問＞

1. Q4 5m以上歩けますか。(いいえ)	1.3		30.0		28.7
	0.1	3.9	12.4	39.7	
1. Q6 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。 (はい)	25.4		64.6		39.2
	16.0	46.3	70.4	61.4	
1. Q8 外出する頻度はどのくらいですか。 A 買物(週1日未満)	4.9		32.3		27.4
	3.9	7.1	22.4	37.9	
1. Q8 外出する頻度はどのくらいですか。 B 散歩(週1日未満)	9.3		31.0		21.7
	7.3	13.8	21.6	36.2	

設問	選択肢	一般	二次予防	要支援	要介護
1. Q7-1 外出を控えている理由は次のどれですか。	病気	13.5	20.8	22.0	27.0
	障害	2.4	2.5	10.8	19.9
	痛み	37.8	59.7	66.5	59.6
	トイレ	11.5	15.0	23.4	31.4
	耳の障害	6.3	7.6	13.4	13.5
	目の障害	5.9	11.6	14.1	12.1
	外の楽しみ	11.5	9.8	12.7	11.1
	経済的に	22.2	19.3	8.9	5.9

設問	選択肢	一般	二次予防	要支援	要介護
1. Q9 外出する際の移動手段は何ですか。	徒歩	79.9	70.1	49.3	23.3
	自転車	44.1	35.8	6.3	1.8
	バイク	2.4	1.8	0.2	0.2
	自動車(自分で運転)	34.1	21.7	3.9	0.9
	自動車(人に乗せてもらう)	14.4	21.3	31.6	39.5
	電車	53.1	44.6	18.0	4.7
	路線バス	29.4	30.0	20.3	4.6
	病院や施設のバス	1.1	2.3	15.1	18.6
	車いす	0.0	0.5	5.3	30.7
	電動車いす(カート)	0.0	0.2	1.6	1.4
	歩行器・シルバーカー	0.2	1.0	14.0	9.1
	タクシー	7.7	13.9	40.4	26.3

(3) 転倒

①設問と評価

- 今回の調査では、基本チェックリストの結果に基づく運動器の機能の評価に加え、転倒リスクについても別に評価している。
- 調査票のⅡ 2. Q1・3～5、7. Q4の5問で、内容としては、転倒経験（基本チェックリストと重複）、背中が丸くなってきましたか、杖の使用、歩行速度、薬の多剤服用の有無となっている。
- 評価における各設問に対する配点は下の図表のとおりであり、転倒経験が5点、その他が各2点で、13点満点のスコアとして評価が可能である。
- 6点以上を転倒リスクありとして評価している。

<図表>転倒リスクの評価方法

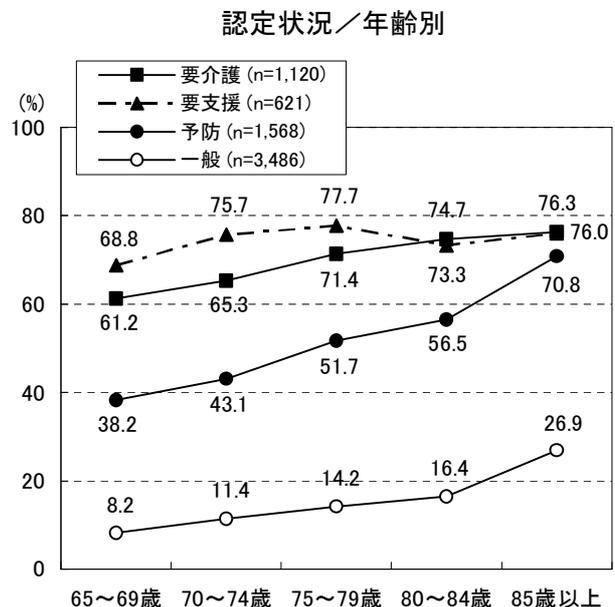
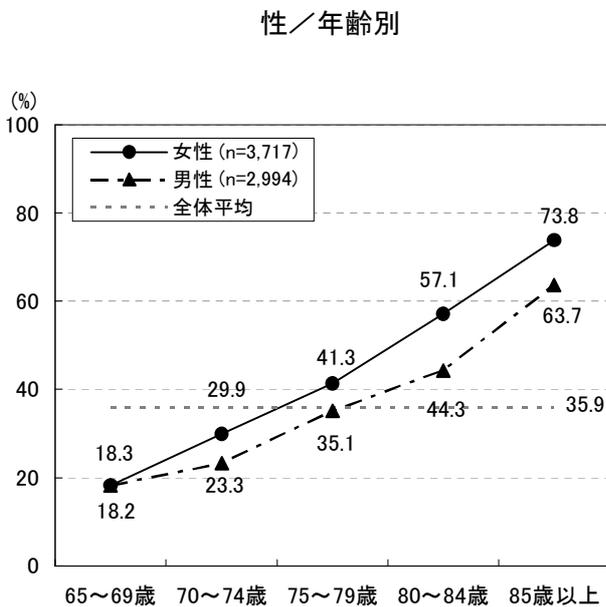
問番号	設問	配点と選択肢
2. Q1	この1年間に転んだことがありますか。	5:「1. はい」 0:「2. いいえ」
2. Q3	背中が丸くなってきましたか。	2:「1. はい」 0:「2. いいえ」
2. Q4	以前に比べて、歩く速度が遅くなってきたと思いますか。	2:「1. はい」 0:「2. いいえ」
2. Q5	杖を使っていますか。	2:「1. はい」 0:「2. いいえ」
7. Q4	現在、医師の処方した薬を何種類飲んでいますか。	2:「5. 5種類以上」 0:1～4または6

★6点以上でリスクありと判定

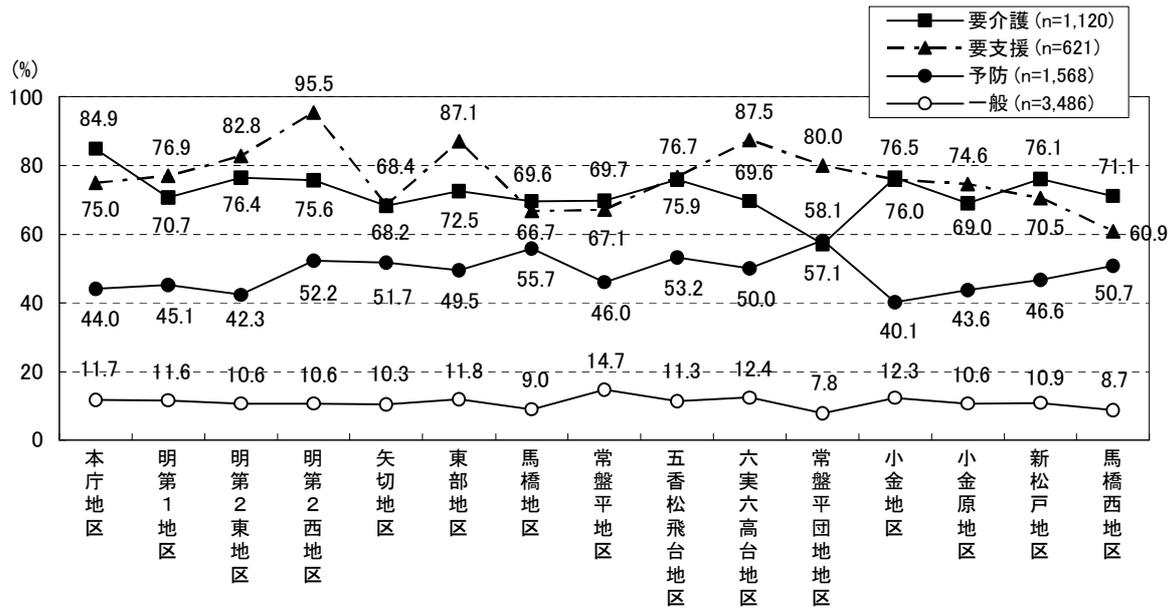
②リスク状況

- 転倒のリスク者割合をみると、認定者も含む全体で35.9%（男性30.0%、女性39.7%）となっている。性／年齢別でみると、男女ともに年齢が上がるほどリスク割合が高く、いずれの年齢でも女性が男性を上回っている。
- 認定状況別でみると、いずれの年齢でも認定者のほうが二次予防対象者よりもリスク割合が高くなっている。また、二次予防対象者は年齢による高低差が大きくなっている。
- 常盤平団地地区以外のすべての居住地区で、認定者のほうが二次予防対象者よりも該当者割合が高くなっている。要介護認定者は明第2西地区で95.5%と特に高い。

<図表>該当者割合



認定状況／居住地区別



③回答状況

<図表> 回答結果

単位: %

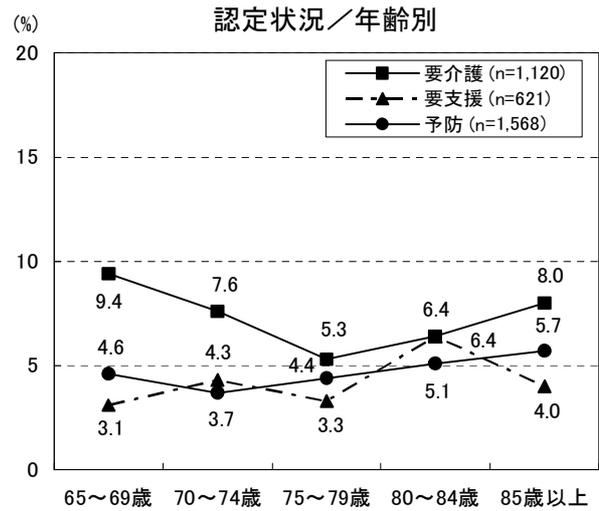
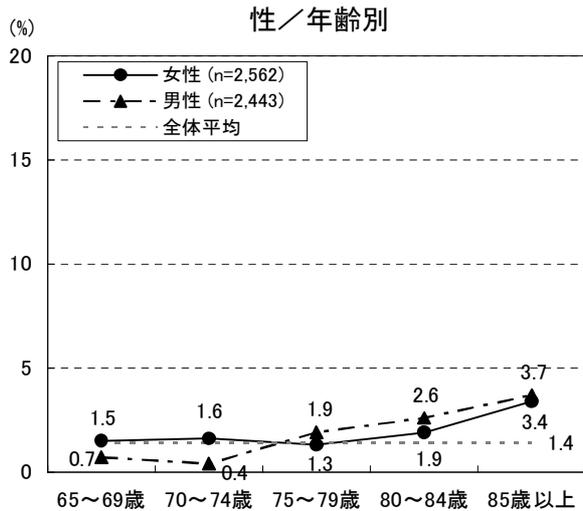
設問(該当する回答)	非認定者 (n=5,054)		認定者 (n=1,741)		差
	一般 (n=3,486)	二次予防 (n=1,568)	要支援 (n=621)	要介護 (n=1,120)	
2. Q1 この1年間に転んだことはありますか。(はい)	20.5		52.2		31.7
	11.2	40.9	49.9	53.5	
2. Q3 背中が丸くなってきましたか。(はい)	27.3		60.5		33.2
	20.1	43.4	56.8	62.6	
2. Q4 以前に比べて、歩く速度が遅くなってきたと思いますか。(はい)	56.8		81.0		24.2
	46.1	80.7	87.6	77.3	
2. Q5 杖を使っていますか。(はい)	5.7		56.0		50.3
	2.0	14.1	63.1	52.1	
7. Q4 現在、医師の処方した薬を何種類飲んでいきますか。(5種類以上)	18.9		55.9		37.0
	13.7	30.5	55.9	56.0	

(4) 栄養

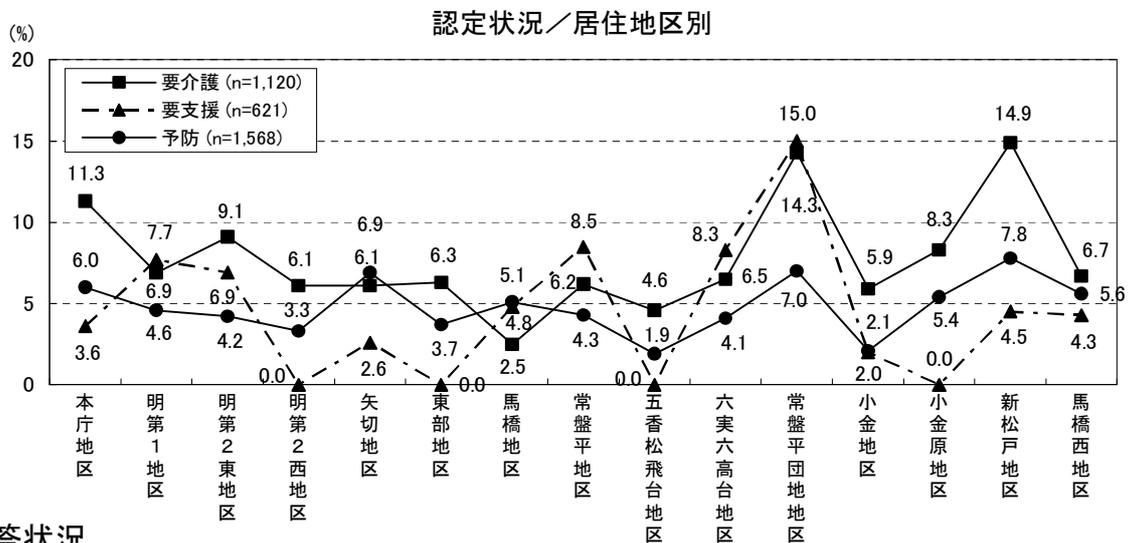
① 該当状況

- 基本チェックリストに基づく栄養改善の該当状況をみると、認定者を除く全体で1.4%（男性1.2%、女性1.6%）となっており、該当者割合は他の項目に比べて低い。なお、おおむね年齢が上がるほど該当者割合が高くなるが、性別による差は小さい。
- 二次予防対象者と認定者を比較すると、要支援認定者と二次予防対象者では該当者割合にほとんど差がない結果となっている。
- 要介護認定者は新松戸地区および常盤平団地地区で、要支援認定者は常盤平団地地区でそれぞれ該当者割合が高くなっている。

<図表> 該当者割合



※認定者を除く。



② 回答状況

<図表> 回答結果

単位: %

設問(該当する回答)	非認定者 (n=5,054)		認定者 (n=1,741)		差
	一般 (n=3,486)	二次予防 (n=1,568)	要支援 (n=621)	要介護 (n=1,120)	
3. Q1 6カ月間で2~3kg以上の体重減少がありましたか。(はい)	10.4		22.4		12.0
	7.1	17.8	23.8	21.6	
3. Q2 身長・体重(BMI=体重/(身長×身長)<18.5)	7.1		15.2		8.1
	5.7	10.2	11.9	17.0	

<関連設問>

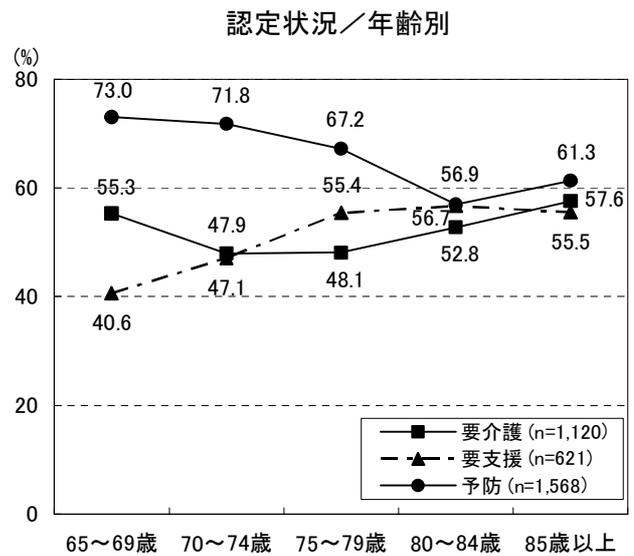
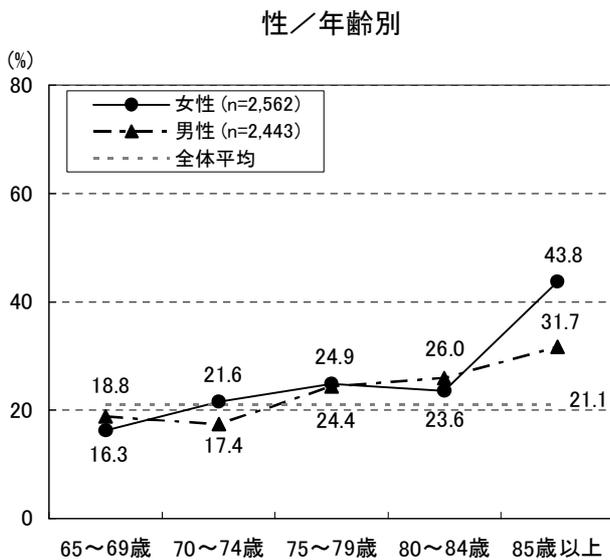
5. Q6 食事は自分で食べられますか。(「一部介助(おかずを切ってもらふなど)があればできる」または「できない」)	0.2		20.7		20.5
	0.1	0.6	2.6	30.7	

(5) 口腔

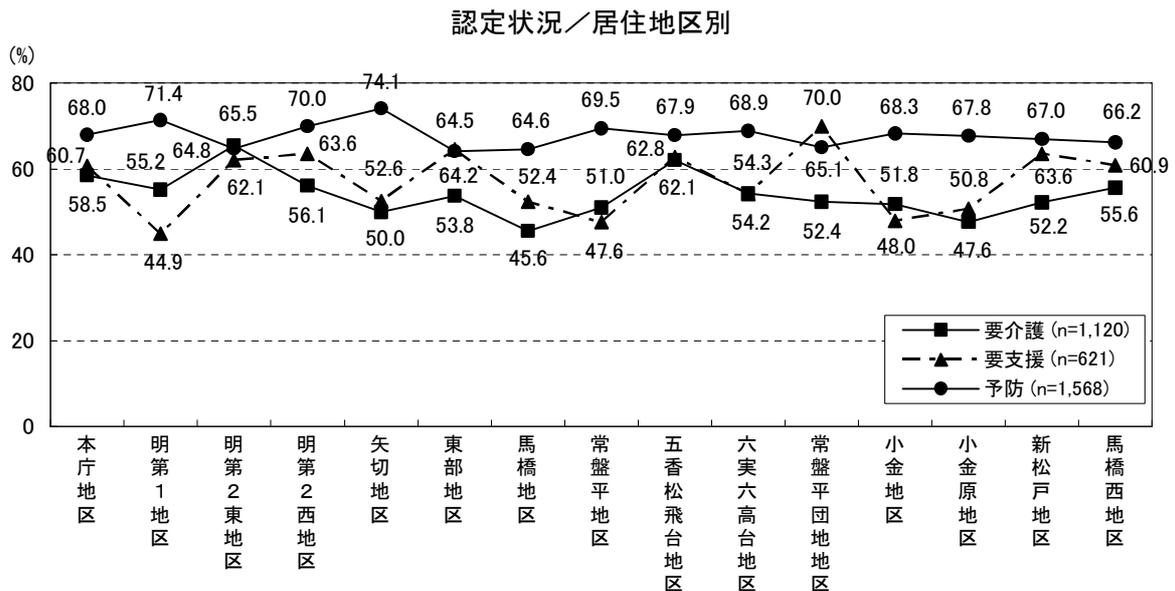
① 該当状況

- 基本チェックリストに基づく口腔に関する該当状況をみると、認定者を除く全体の該当者割合は21.1%（男性20.8%、女性21.2%）となっている。性／年齢別でみると、おおむね年齢が上がるほど該当者割合が高くなり、特に女性の85歳以上で43.8%となっている。
- 二次予防対象者と認定者を比較すると、いずれの年齢でも二次予防対象者が認定者を上回っている。
- ほとんどの居住地区で二次予防対象者が認定者を上回っている。常盤平団地地区では要支援認定者が70.0%と高く、二次予防対象者を上回っている。

<図表> 該当者割合



※認定者を除く。



②回答状況

＜図表＞回答結果

単位：%

設問(該当する回答)	非認定者 (n=5,054)		認定者 (n=1,741)		差
	一般 (n=3,486)	二次予防 (n=1,568)	要支援 (n=621)	要介護 (n=1,120)	
3. Q3 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。(はい)	31.3		60.9		29.6
	16.8	63.7	61.7	60.4	
3. Q4 お茶や汁物等でむせることがありますか。(はい)	21.2		49.6		28.4
	8.0	50.5	48.5	50.3	
3. Q5 口の渴きが気になりますか。(はい)	25.1		48.0		22.9
	9.8	59.0	51.4	46.2	

＜関連設問＞

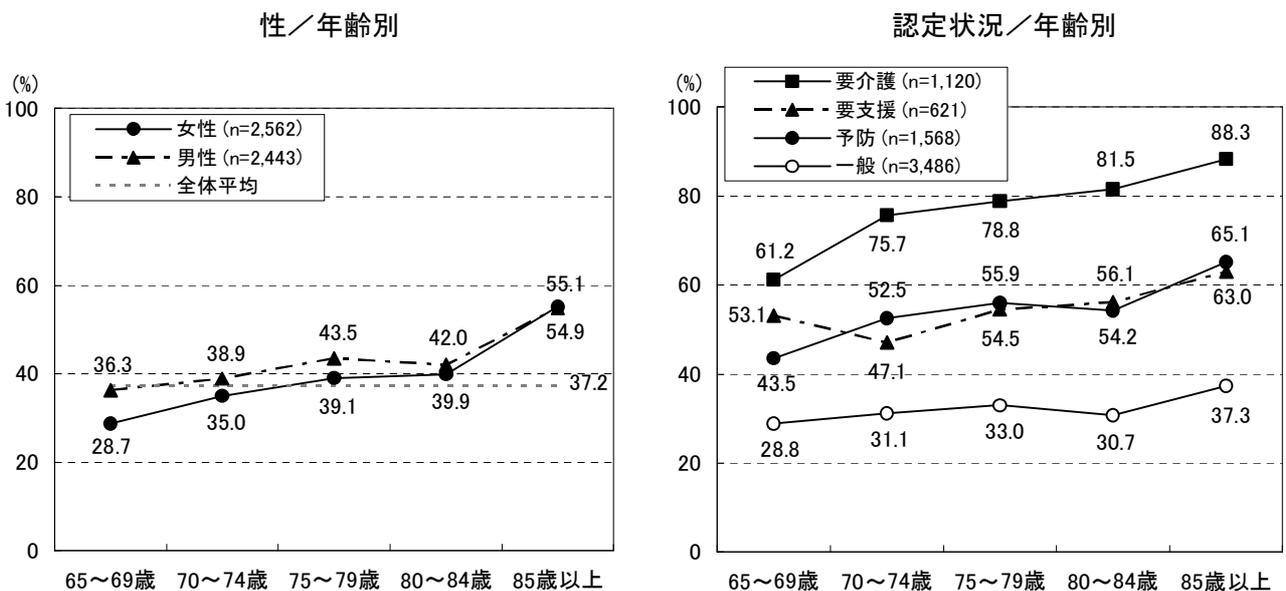
3. Q6 歯磨き(人にやってもらう場合も含む)を毎日していますか。(いいえ)	10.3		18.7		8.4
	9.4	12.2	10.8	23.1	
3. Q7 定期的に歯科受診(健診を含む)をしていますか。(いいえ)	51.0		60.5		9.5
	47.6	58.5	57.3	62.2	
3. Q8 歯の数(かぶせた歯、さし歯、根だけ残っている歯を含む)は現在何本ですか。(平均/本)	20.3		11.4		-8.9
	21.3	17.9	14.1	9.9	
3. Q9 入れ歯を使用していますか。(はい)	54.0		69.4		15.4
	49.1	64.8	71.7	68.1	
3. Q9-1 噛み合わせはよいですか。(いいえ)	17.8		27.7		9.9
	11.7	28.1	27.9	27.7	
3. Q9-2 毎日、入れ歯の手入れ(人にやってもらう場合も含む)をしていますか。(いいえ)	7.7		14.6		6.9
	6.6	9.6	11.0	16.6	

(6) 認知機能

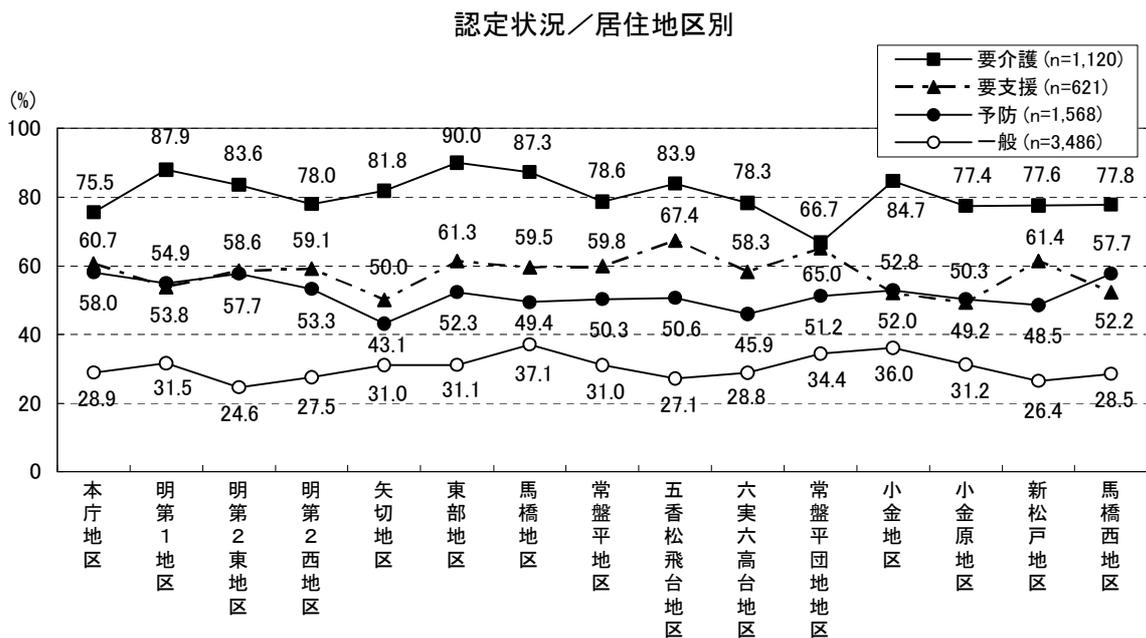
① 該当状況

- 基本チェックリストにおける認知症予防の該当状況をみると、認定者を除く全体の該当者割合は37.2%（男性39.9%、女性34.8%）となっている。性／年齢別でみると、性別による差は小さく、男女ともに85歳以上で高くなっている。
- 認定状況別でみると、いずれの年齢でも要介護認定者が最も該当者割合が高くなっている。要支援認定者と二次予防対象者ではあまり差がない。
- 多くの居住地区で要介護認定者、要支援認定者、二次予防対象者、一般高齢者の順で該当者割合が高くなっている。要支援認定者と二次予防対象者では該当者割合にあまり差がない。

<図表> 該当者割合



※認定者を除く。



②回答状況

<図表> 回答結果

単位：%

設問(該当する回答)	非認定者 (n=5,054)		認定者 (n=1,741)		差
	一般 (n=3,486)	二次予防 (n=1,568)	要支援 (n=621)	要介護 (n=1,120)	
4. Q1 周りの人から「いつも同じことを聞く」などの物忘れがあると言われますか。(はい)	16.2		46.6		30.4
	10.6	28.8	32.7	54.3	
4. Q2 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。(いいえ)	10.1		46.4		36.3
	8.7	13.2	17.9	62.1	
4. Q3 今日が何月何日かわからない時がありますか。(はい)	22.2		54.5		32.3
	17.4	32.9	39.3	62.9	

<関連設問>

F4-1 介護・介助が必要になった主な原因は何ですか。 F6-1 (認知症)	5.4		19.7	
	5.7	5.3	1.9	27.9
7. Q3 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(認知症)	0.3		16.9	
	0.2	0.6	1.6	25.4

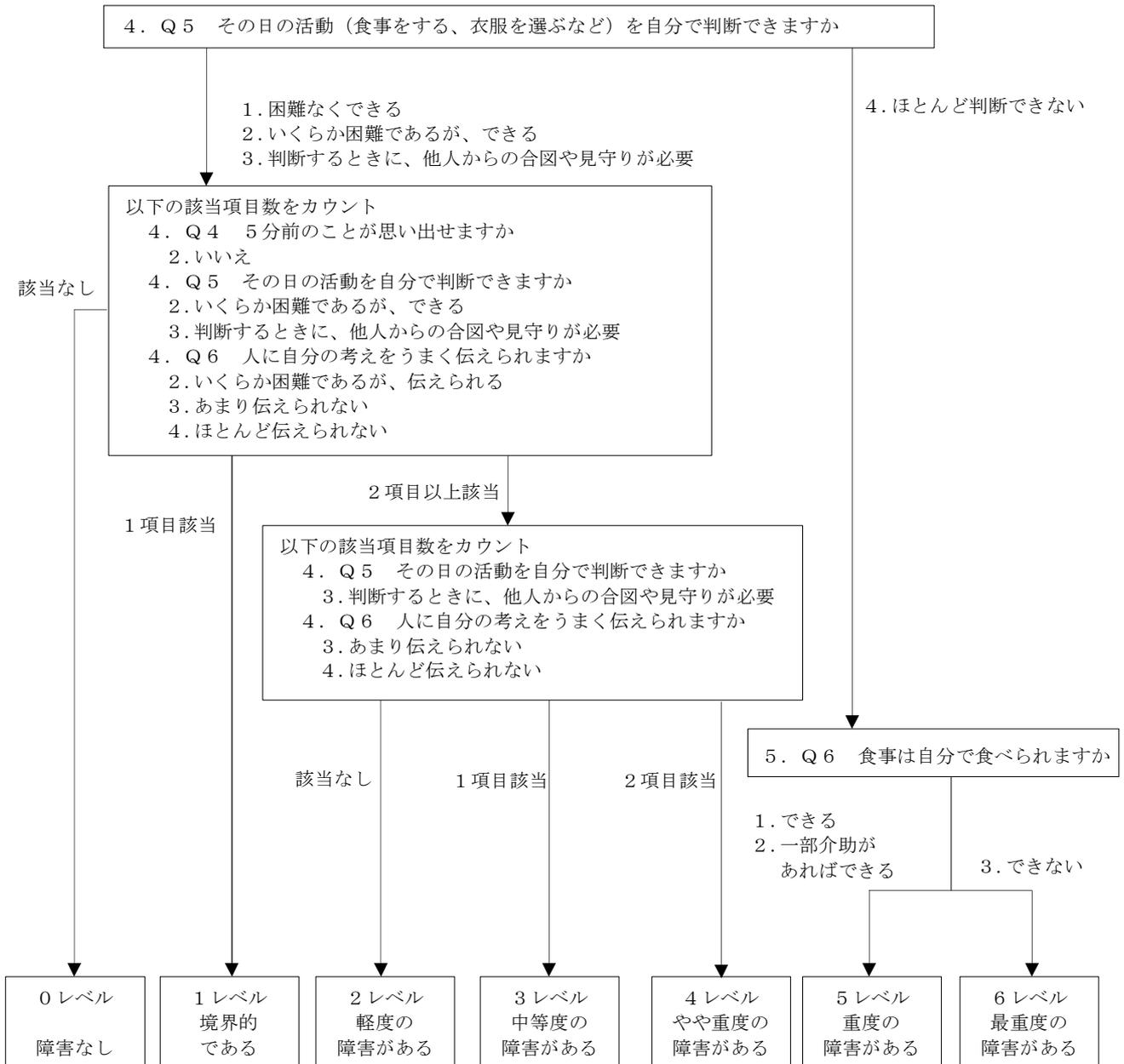
③認知機能障害程度（CPS）

《設問と評価》

○今回の調査には、認知機能の障害程度の指標として有用とされるCPS（Cognitive Performance Scale）に準じた設問が含まれている。

○設問としては調査票のⅡ 4. Q4～6及び5. Q6で、内容的には要介護認定調査の主治医意見書欄にある内容であり、0レベル（障害なし）から6レベル（最重度の障害がある）までの評価をするものとなっている。

<図表> 認知機能の障害程度の評価方法



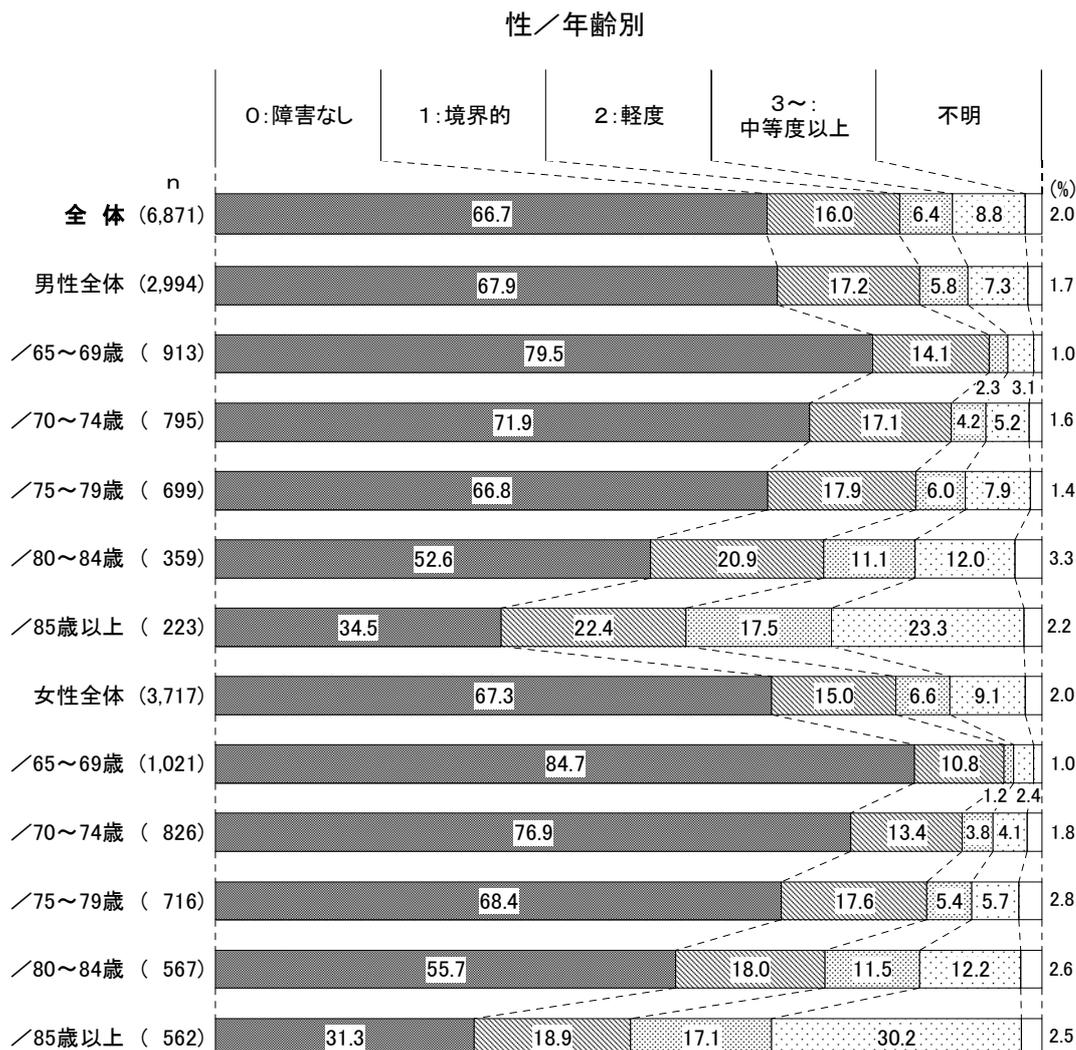
④リスク状況

○評価結果をみると、1レベル以上の障害程度と評価されるリスク者の割合は、全体で31.2%、男性30.4%、女性30.7%で、性別による大きな差はみられない。

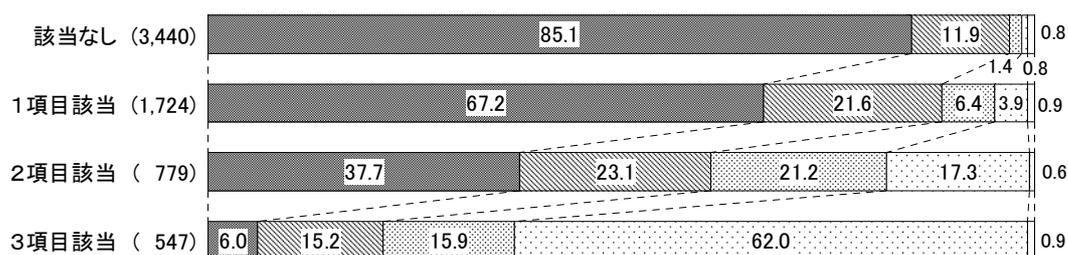
○性／年齢別でみると、男女ともに年齢が上がるほどリスク者割合が高くなっている。

○基本チェックリストの認知症予防に関する各設問の該当項目数ごとに、障害程度区分別の構成割合をみると、該当項目数が多くなるほど2レベル、3レベル以上が多くなっている。認知症予防の評価で3項目該当する場合は、90%以上が1レベル以上の認知機能の障害ありという結果となっている。

<図表>障害程度区分別割合



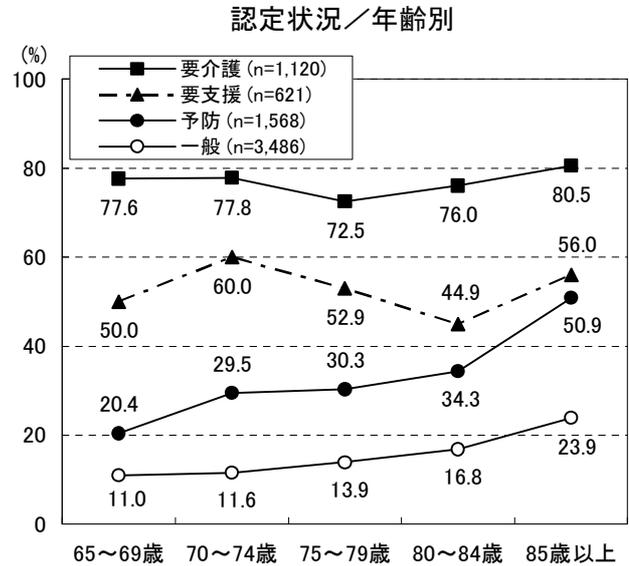
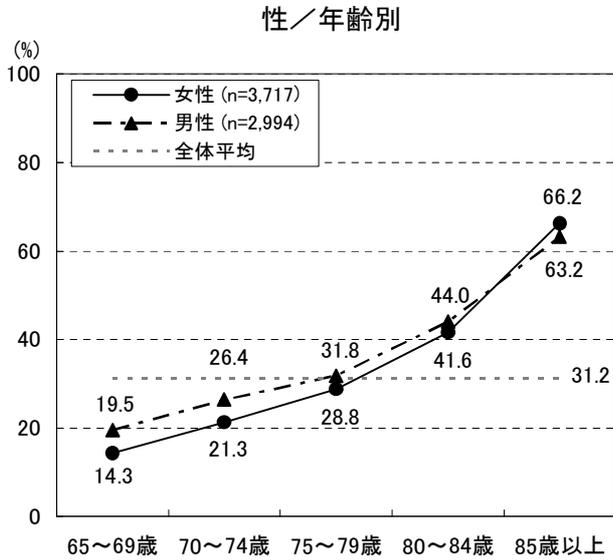
認知症予防該当項目数別



※認知症予防判定が不明な方を除く。

○認定状況別にリスク者割合をみると、要介護認定者が78.2%で最も高く、次いで要支援認定者(52.3%)、二次予防対象者(29.3%)、一般高齢者(12.5%)の順となっている。また、二次予防対象者は年齢による差が大きくなっている。

<図表> リスク者割合



⑤回答状況

<図表> 回答結果

単位：%

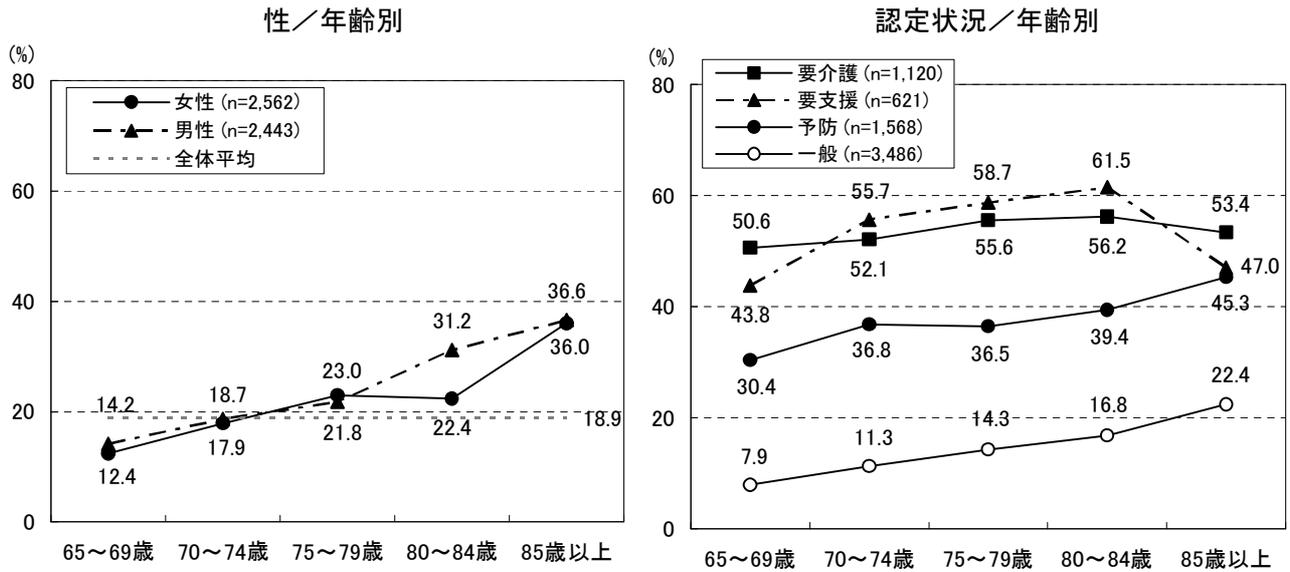
設問(該当する回答)	非認定者 (n=5,054)		認定者 (n=1,741)		差
	一般 (n=3,486)	二次予防 (n=1,568)	要支援 (n=621)	要介護 (n=1,120)	
4. Q4 5分前のことが思い出せますか。(いいえ)	8.0		29.9		21.9
	7.0	10.1	13.8	38.8	
4. Q5 その日の活動(食事をする、衣服を選ぶなど)を自分で判断できますか。(いづれが困難であるが、できる～ほとんど判断できない)	5.4		59.1		53.7
	2.1	12.8	38.5	70.5	
4. Q6 人に自分の考えをうまく伝えられますか。(いづれが困難であるが、伝えられる～ほとんど伝えられない)	9.1		49.5		40.4
	4.8	18.6	32.9	58.8	
5. Q6 食事は自分で食べられますか。(一部介助(おかずを切ってもらうなど)があればできる、できない)	0.2		20.7		20.5
	0.1	0.6	2.6	30.7	

(7) うつ予防

① 該当状況

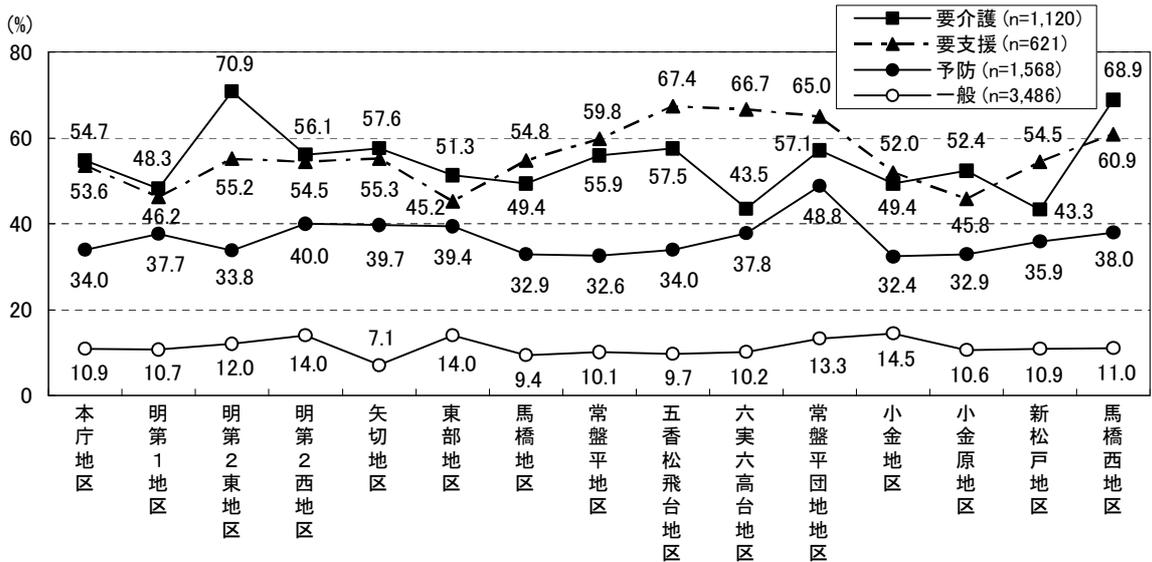
- 基本チェックリストにおけるうつ予防の該当状況をみると、認定者を除く全体で18.9%（男性19.6%、女性18.0%）となっている。性/年齢別でみると、おおむね年齢が上がるほど該当者割合が高くなっており、性別による差は比較的小さい。
- 認定状況別でみると、いずれの年齢でも認定者が二次予防対象者を上回っている。
- いずれの居住地区でも認定者が二次予防対象者を上回っている。

<図表> 該当者割合



※認定者を除く。

認定状況/居住地区別



②回答状況

<図表> 回答結果

単位：%

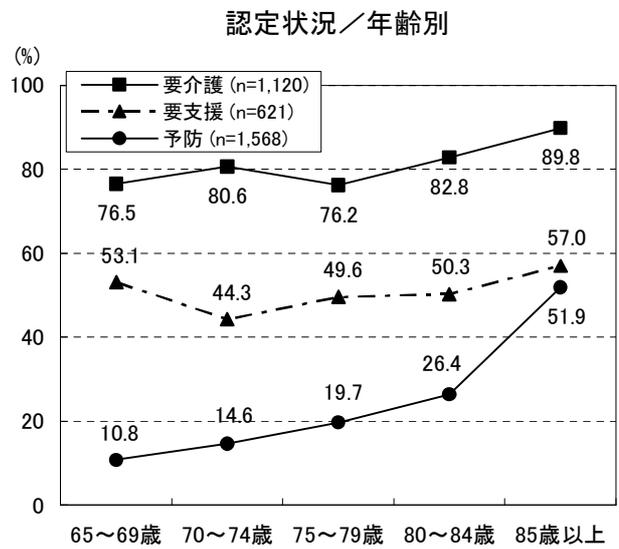
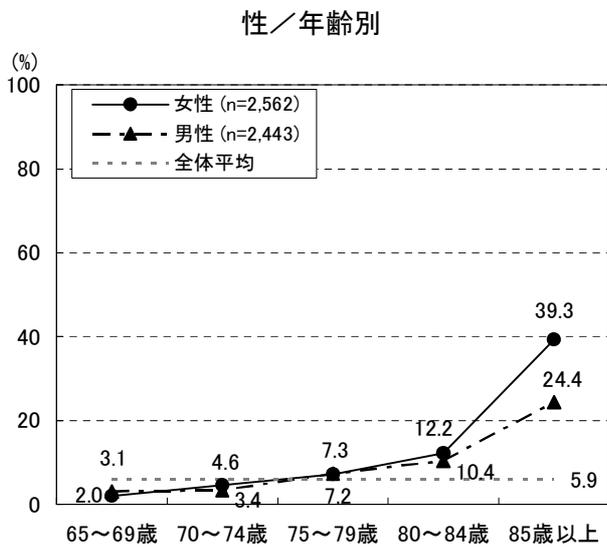
設問(該当する回答)	非認定者 (n=5,054)		認定者 (n=1,741)		差
	一般 (n=3,486)	二次予防 (n=1,568)	要支援 (n=621)	要介護 (n=1,120)	
7. Q8 ここ2週間、毎日の生活に充実感がない。(はい)	18.5		42.1		23.6
7. Q9	14.3	27.9	39.9	43.3	
7. Q9 ここ2週間、これまで楽しんでやれていたことが楽し	9.3		31.0		21.7
7. Q10 めなくなった。(はい)	5.5	17.7	29.5	31.9	
7. Q10 ここ2週間、以前は楽にできたことが、今ではおっく	16.3		48.4		32.1
7. Q11 うに感じられる。(はい)	9.0	32.6	51.2	46.8	
7. Q11 ここ2週間、自分が役に立つ人間だと思えない。	15.0		45.5		30.5
7. Q12 (はい)	10.2	25.6	46.4	45.0	
7. Q12 ここ2週間、わけもなく疲れたような感じがする。	15.6		41.1		25.5
7. Q13 (はい)	8.5	31.3	44.8	39.1	
<関連設問>					
7. Q1 普段、ご自分で健康だと思いますか。 (あまり健康ではない、健康ではない)	17.9		58.1		40.2
	10.9	33.5	55.2	59.7	

(8) 生活機能低下

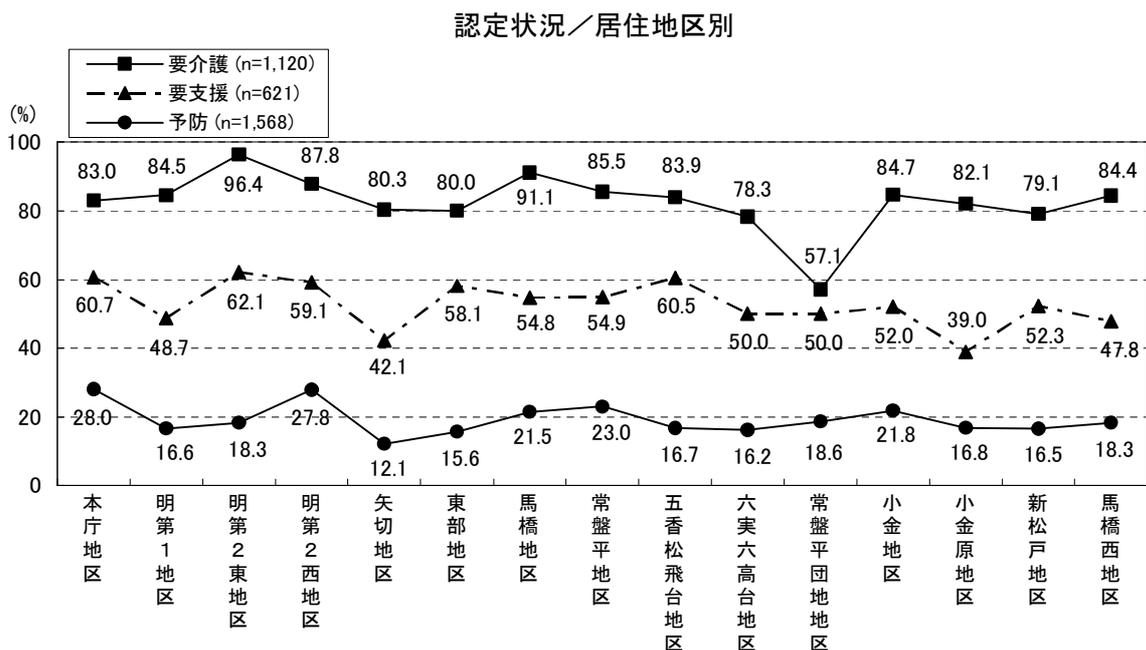
① 該当状況

- 基本チェックリストで、うつ予防に関する5項目を除いた20項目中、10項目以上が該当した場合、二次予防対象者となる。
- この該当者割合をみると、認定者を除く全体で5.9%（男性5.6%、女性6.2%）で、男女ともおおむね年齢が上がるほど該当者割合が高くなり、特に女性の85歳以上で39.3%となっている。
- 認定状況別でみると、いずれの年齢でも要介護認定者、要支援認定者、二次予防対象者の順に高くなっており、要介護認定者の85歳以上では89.8%が虚弱に該当している。
- いずれの居住地区でも要介護認定者、要支援認定者、二次予防対象者の順に該当者割合が高くなっている。二次予防対象者は本庁地区で28.0%、明第2西地区で27.8%と該当者割合が高い。

<図表> 該当者割合



※認定者を除く。



②回答状況

＜図表＞回答結果

単位：％

設問(該当する回答)	非認定者 (n=5,054)		認定者 (n=1,741)		差
	一般 (n=3,486)	二次予防 (n=1,568)	要支援 (n=621)	要介護 (n=1,120)	
5. Q1 バスや電車(自家用車でも可)で一人で外出していますか。(「できるけどしていない」または「できない」)	8.2		76.0		67.8
	4.3	16.6	51.9	89.4	
5. Q2 日用品の買物をしていますか。(「できるけどしていない」または「できない」)	9.4		71.6		62.2
	6.8	15.3	45.7	85.9	
5. Q5 預貯金の出し入れをしていますか。(「できるけどしていない」または「できない」)	15.7		65.7		50.0
	13.8	20.0	35.9	82.2	
6. Q5 友人の家を訪ねていますか。(いいえ)	39.9		84.0		44.1
	34.8	51.1	74.4	89.4	
6. Q6 家族や友人の相談にのっていますか。(いいえ)	16.1		64.8		48.7
	11.5	26.3	50.9	72.6	

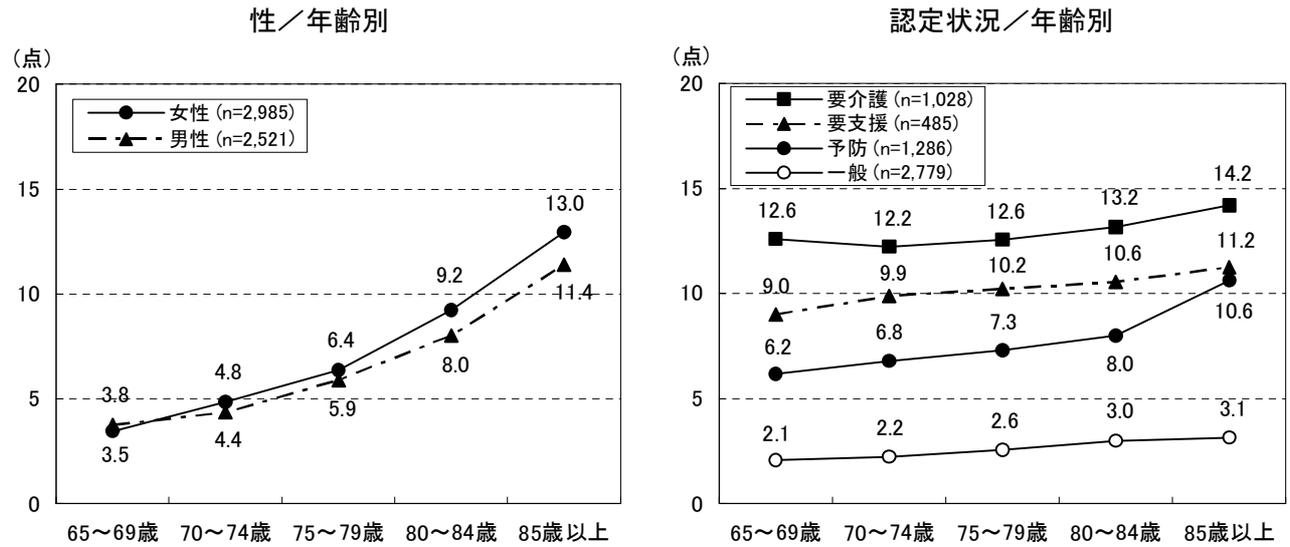
③基本チェックリスト得点

○この基本チェックリスト20項目について、その合計得点の平均を求めたのが下の図表となっている。男女とも年齢が上がるほど平均得点が上がっており、性別による差は比較的小さくなっている。

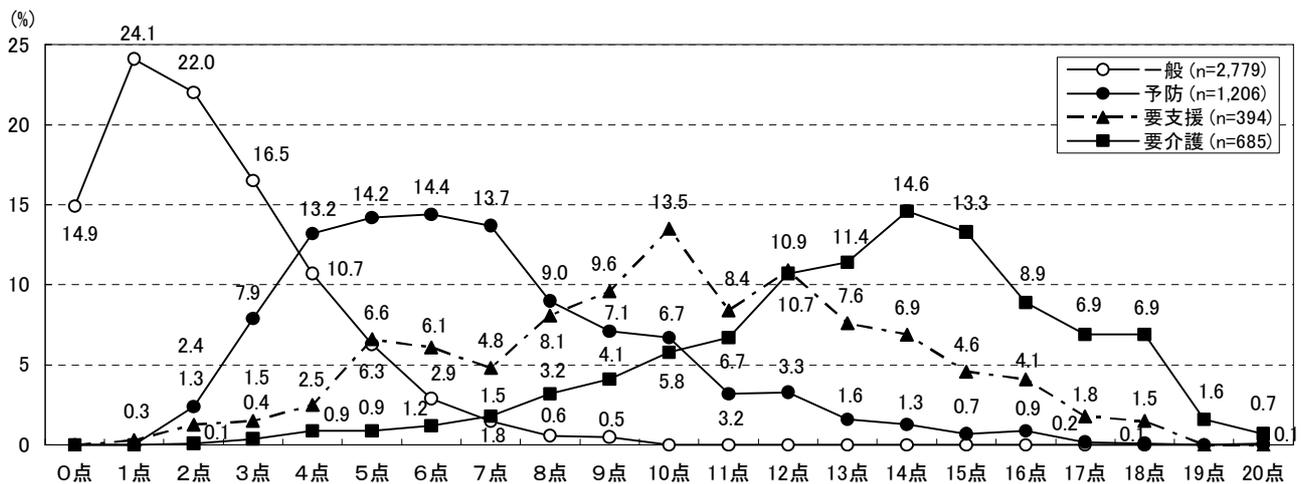
○認定状況別でみると、要介護認定者、要支援認定者、二次予防対象者、一般高齢者の順で、それぞれの生活機能のレベルを反映した結果となっている。

○20項目すべてに回答のあった方のこの得点の相対度数分布をみると、要介護認定者で14点、要支援認定者で10点、二次予防対象者で6点、一般高齢者で1点がそれぞれ分布のピークになっている。

<図表>基本チェックリスト平均得点



<図表>基本チェックリスト得点の相対度数分布

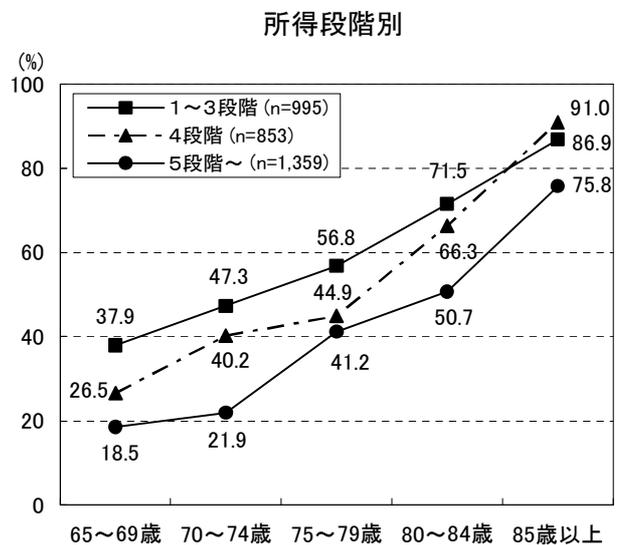
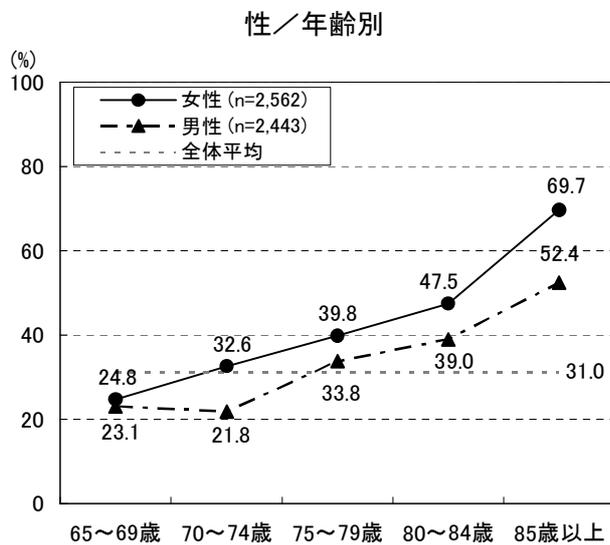


(9) 二次予防対象者

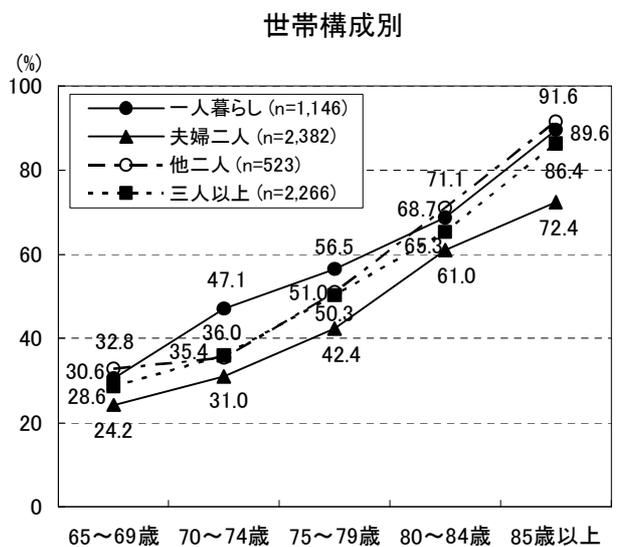
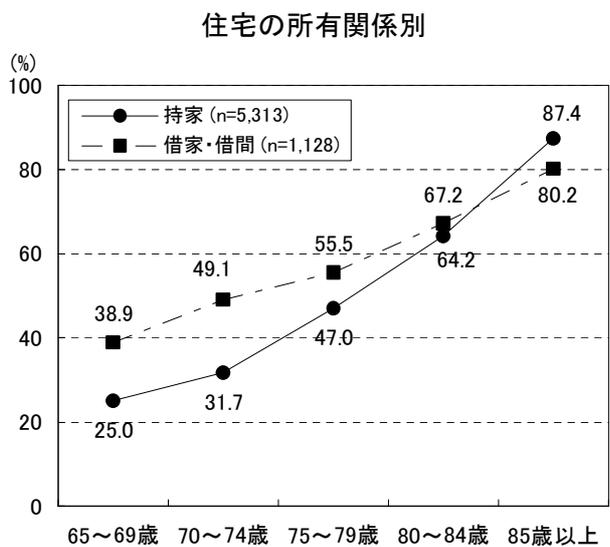
① 該当状況

- 二次予防対象者については、運動、口腔など、複数の評価項目で重複して該当している場合があるため、こうした重複を除いて該当者割合を求めたのが下の図表となっている。
- 該当者割合は、認定者を除く全体で31.0%（男性27.7%、女性34.0%）で、女性の方が高くなっている。また、いずれの年齢でも女性が男性を上回り、85歳以上で約17ポイント差となっている。
- 所得段階別では第5段階以上で、住宅の所有関係別では持家で、世帯構成別では夫婦二人暮らしでそれぞれ該当者割合が低く、こうした属性をもつ高齢者では比較的生活機能が高い高齢者が多いことがうかがえる。
- 逆に、借家、配偶者以外と二人暮らしといった高齢者では生活機能の低下している高齢者が多いことがうかがえる。
- 居住地区別では、矢切地区が51.9%、明第2東地区が51.8%と対象者割合が比較的高くなっている。

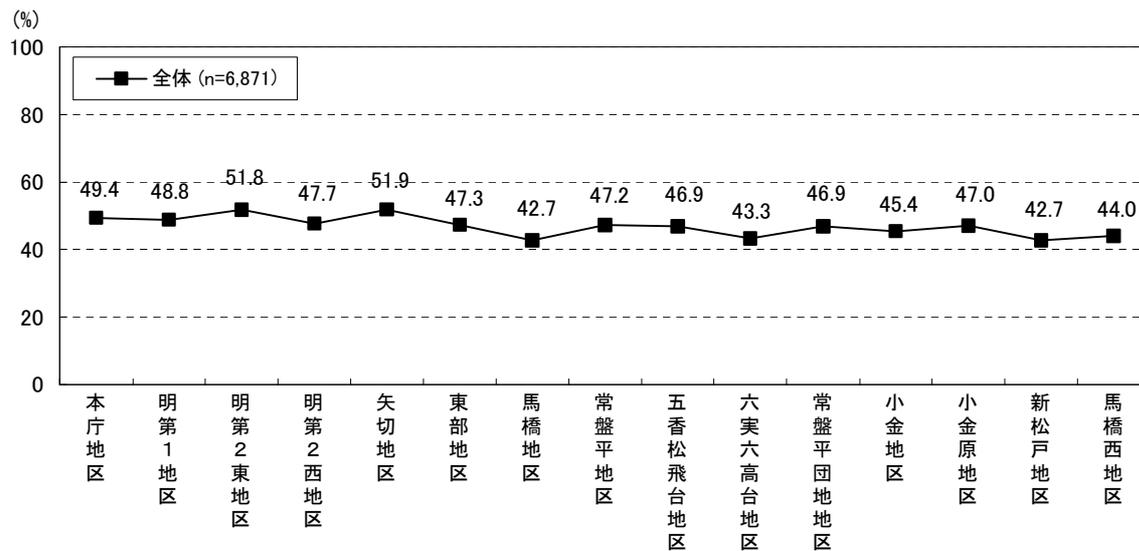
<図表> 該当者割合



※認定者を除く。



居住地区別



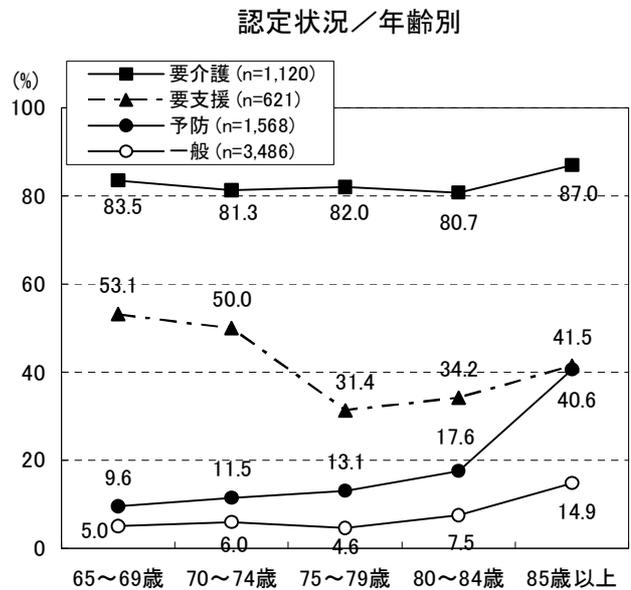
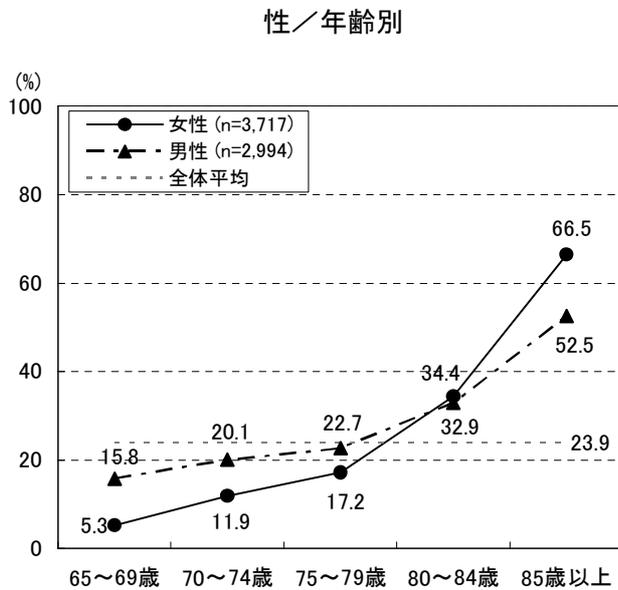
2 日常生活

(1) 手段的自立度 (IADL)

① 評価結果

- 本調査では、高齢者の比較的高次の生活機能を評価することができる老研式活動能力指標に準じた設問が設けられている (II 5. Q1~5, 6. Q1~6・8・9)。
- このうち、手段的自立度 (IADL) については、各設問に「できるし、している」または「できるけどしていない」と回答した場合を1点として、5点満点で評価し、5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」として評価している。
- 4点以下を低下者とした評価結果をみると、79歳までは男性の方が女性よりも低下者割合が高くなっているが、80歳以上では逆に女性の方が高くなっている。
- 認定状況別でみると、低下者割合が最も高いのは要介護認定者で、次いで要支援認定者、二次予防対象者、一般高齢者の順となっている。

<図表> 該当者割合



② 回答状況

<図表> 回答結果

単位: %

設問 (得点カウントする回答)	非認定者 (n=5,054)		認定者 (n=1,741)		差
	一般 (n=3,486)	二次予防 (n=1,568)	要支援 (n=621)	要介護 (n=1,120)	
5. Q1 バスや電車 (自家用車でも可) で一人で外出していますか。 (「できるし、している」または「できるけどしていない」)	96.2		32.8		63.4
	98.1	92.1	63.3	15.9	
5. Q2 日用品の買物をしていますか。 (「できるし、している」または「できるけどしていない」)	97.2		40.3		56.9
	98.3	94.6	68.6	24.6	
5. Q3 自分で食事の用意をしていますか。 (「できるし、している」または「できるけどしていない」)	93.1		42.1		51.0
	94.5	89.9	73.9	24.5	
5. Q4 請求書の支払いをしていますか。 (「できるし、している」または「できるけどしていない」)	96.9		51.6		45.3
	97.8	94.8	82.8	34.3	
5. Q5 預貯金の出し入れをしていますか。 (「できるし、している」または「できるけどしていない」)	95.9		49.1		46.8
	97.0	93.4	82.0	30.8	

<図表> 回答結果（能力と実行状況の差）

単位：％

設問(回答)	非認定者 (n=5,054)		認定者 (n=1,741)	
	一般 (n=3,486)	二次予防 (n=1,568)	要支援 (n=621)	要介護 (n=1,120)
5. Q1 バスや電車(自家用車でも可)で一人で外出していますか。(できるけどしていない)	5.8		11.5	
	3.8	10.1	19.0	7.4
5. Q2 日用品の買物をしていますか。(できるけどしていない)	7.8		15.0	
	6.5	10.9	18.5	13.1
5. Q3 自分で食事の用意をしていますか。(できるけどしていない)	22.1		12.4	
	23.1	20.0	16.4	10.2
5. Q4 請求書の支払いをしていますか。(できるけどしていない)	13.3		14.2	
	12.4	15.2	15.8	13.3
5. Q5 預貯金の出し入れをしていますか。(できるけどしていない)	12.5		16.5	
	11.7	14.3	19.8	14.7

<関連設問>

単位：％

設問(該当する回答)	非認定者 (n=5,054)		認定者 (n=1,741)		差
	一般 (n=3,486)	二次予防 (n=1,568)	要支援 (n=621)	要介護 (n=1,120)	
5. Q17 家事全般ができていますか。(いいえ)	11.0		78.3		67.3
	7.7	18.2	60.9	88.0	

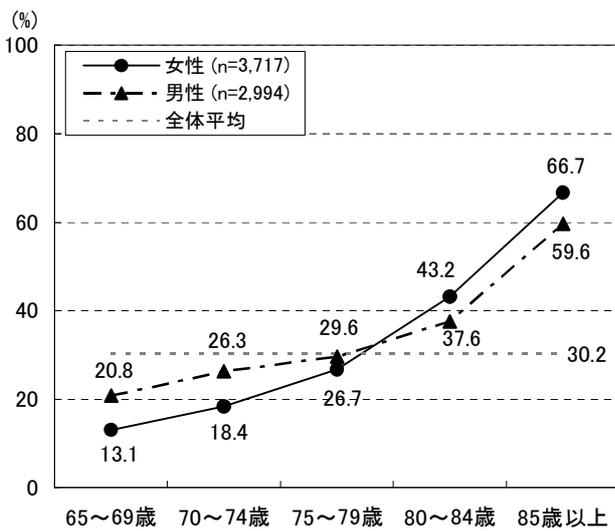
(2) 生活機能総合評価

①生活機能低下者割合

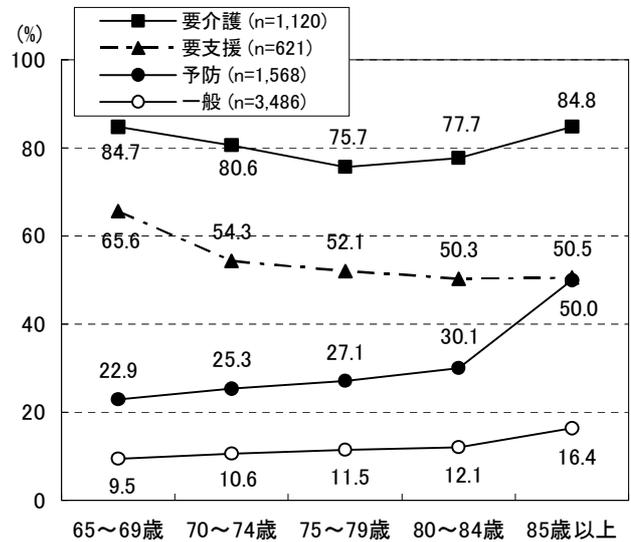
- この手段的自立度に、知的能動性、社会的役割を加えた老研指標13項目での評価結果は、以下のとおりとなっている。評価は、13点満点で評価し、11点以上を「高い」、9～10点を「やや低い」、8点以下を「低い」として評価している。
- 10点以下を低下者とした結果をみると、79歳までは男性の方が女性よりも低下者割合が高くなっていくが、80歳以上では逆に女性の方がその割合が高くなっていく。
- 認定状況別でみると、低下者割合が最も高いのは要介護認定者で、次いで要支援認定者、二次予防対象者、一般高齢者の順となっている。

<図表> 該当者割合

性／年齢別



認定状況／年齢別



(3) 日常生活動作 (ADL)

①設問と評価

- 今回の調査では、要介護認定者が調査対象に含まれていることもあり、日常生活動作 (ADL) に関する設問が項目として含まれている。
- 内容としては、食事、移動、整容、トイレ動作、入浴、歩行、階段昇降、着替え、排便、排尿の10項目で (II 5. Q6~16)、ADL評価指標として広く用いられているバーセルインデックスに準じた設問内容となっている。
- 設問ごとの配点は、バーセルインデックスの評価方法に従って、各設問で自立を5~15点とし10項目の合計が100点満点となるよう評価している。

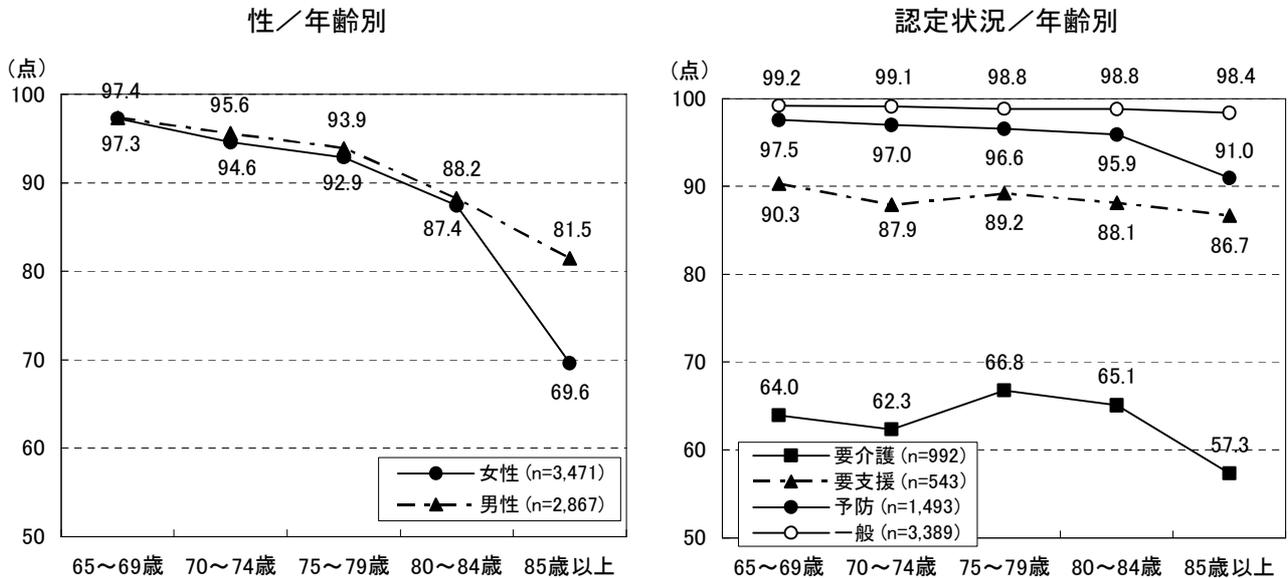
<図表> ADLの評価方法

問番号	項目	配点	選択肢
5. Q6	栄養	10 5 0	「1 できる」 「2 一部介助(おかずを切ってもらなど)があればできる」 「3 できない」
5. Q7	ベッドへの移動	15 10 5 0	「1 受けない」 「2 一部介助があればできる」 「3 全面的な介助が必要」 (5. Q8の回答が「1 できる」「2 支えが必要」の場合) 「3 全面的な介助が必要」 (5. Q8の回答が「3 できない」の場合)
5. Q9	整容	5 0	「1 できる」 「2 一部介助があればできる」または「3 できない」
5. Q10	トイレ	10 5 0	「1 できる」 「2 一部介助(他人に支えてもらう)があればできる」 「3 できない」
5. Q11	入浴	5 0	「1 できる」 「2 一部介助(他人に支えてもらう)があればできる」または「3 できない」
5. Q12	歩行	15 10 0	「1 できる(杖使用も可)」 「2 一部介助(他人に支えてもらう)があればできる」 「3 できない」
5. Q13	階段昇降	10 5 0	「1 できる」 「2 介助があればできる」 「3 できない」
5. Q14	着替え	10 5 0	「1 できる」 「2 介助があればできる」 「3 できない」
5. Q15	排便	10 5 0	「1 ない」 「2 ときどきある」 「3 よくある」
5. Q16	排尿	10 5 0	「1 ない」 「2 ときどきある」 「3 よくある」

②評価結果

- ADLの合計得点の平均値をみると、男女とも年齢が上がるほど平均得点が低下しており、特に女性の85歳以上では69.6%と大幅に低下している。
- 認定状況別では、いずれの年齢においても一般高齢者、二次予防対象者、要支援認定者、要介護認定者の順で平均得点が高くなっている。

<図表> ADL平均得点

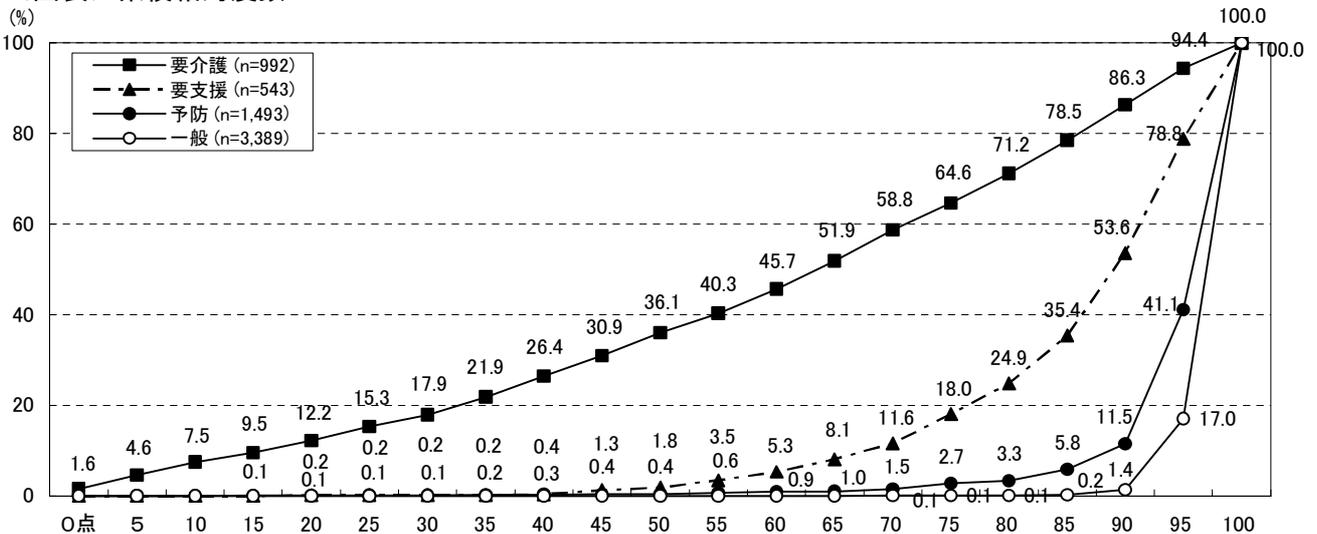


※10問全問に回答のあった方の平均

③ADL得点累積相対度数

- ADL合計得点を、関連する設問すべてに回答のあった方について、認定状況別に累積相対度数で見ると、要介護認定者では高得点から低得点まで得点が分散しているため、ほぼ右上がり直線状の分布となっている。一方、二次予防対象者、一般高齢者では95点以上が過半数を占めるため、L字型の分布となっている。要支援認定者はその中間に位置している。

<図表> 累積相対度数



※ADLに関する全設問に回答した者のみ

④回答状況

＜図表＞回答結果

単位：%

設問(自立と評価できる回答)	非認定者 (n=5,054)		認定者 (n=1,741)		差
	一般 (n=3,486)	二次予防 (n=1,568)	要支援 (n=621)	要介護 (n=1,120)	
5. Q6 食事は自分で食べられますか。(できる)	99.1		77.9		21.2
	99.2	98.7	96.3	67.7	
5. Q7 寝床に入るとき、何らかの介助を受けますか。 (受けない)	98.4		68.6		29.8
	98.8	97.4	91.8	55.7	
5. Q8 座っていることができますか。(できる)	95.7		67.1		28.6
	97.7	91.2	72.8	64.0	
5. Q9 自分で洗面や歯磨きができますか。(できる)	99.0		73.7		25.3
	99.2	98.6	96.1	61.3	
5. Q11 自分で入浴ができますか。(できる)	98.7		48.1		50.6
	99.2	97.5	80.5	30.2	
5. Q12 50m以上歩けますか。(できる)	97.5		43.0		54.5
	99.0	94.3	66.5	29.9	
5. Q13 階段を昇り降りできますか。(できる)	96.7		36.1		60.6
	98.8	92.0	57.8	24.1	
5. Q14 自分で着替えができますか。(できる)	98.9		65.6		33.3
	99.1	98.3	93.4	50.2	
5. Q15 大便の失敗がありますか。(ない)	95.6		53.1		42.5
	97.4	91.8	74.7	41.1	
5. Q16 尿もれや尿失禁がありますか。(ない)	76.0		27.7		48.3
	82.6	61.4	35.6	23.3	

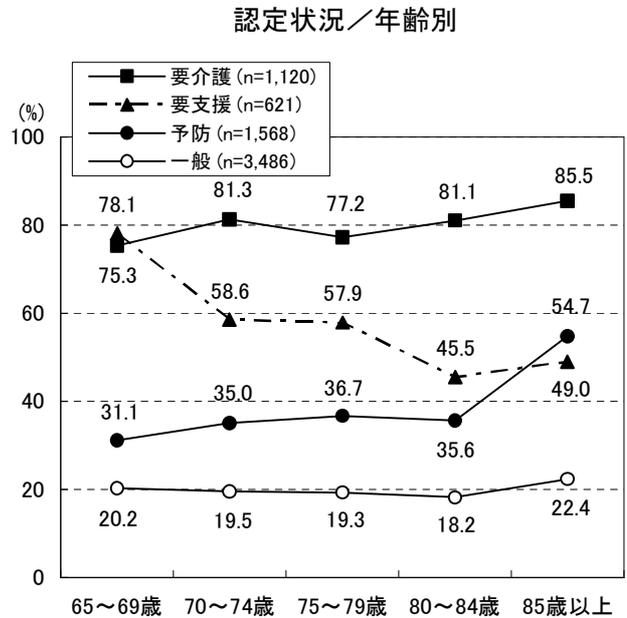
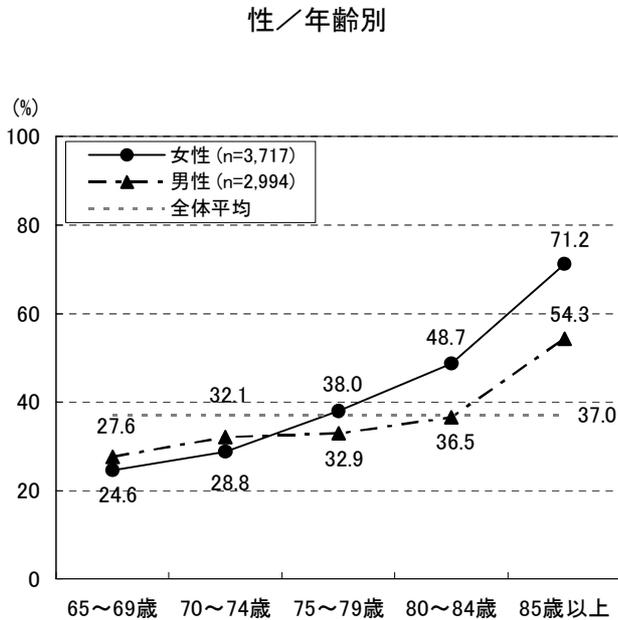
3 社会活動

(1) 知的能動性

① 評価結果

- 老研式活動能力指標には、高齢者の知的活動に関する設問が4問設けられ、「知的能動性」として尺度化されている(Ⅱ 6. Q1~4)。
- 評価は、各設問に「はい」と回答した場合を1点として、4点満点の4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」と評価している。
- 3点以下を低下者とした評価結果をみると、74歳までは男性の方が女性よりも低下者割合が高くなっているが、75歳以上では逆に女性の方が高くなっている。
- 認定状況別でみると、65~69歳と85歳以上を除いて、要介護認定者、要支援認定者、二次予防対象者、一般高齢者の順に低下者割合が高くなっている。65~69歳では要介護認定者と要支援認定者がほぼ同率、85歳以上では二次予防対象者が要支援認定者を上回っている。

<図表> 該当者割合



② 回答状況

<図表> 回答結果

単位: %

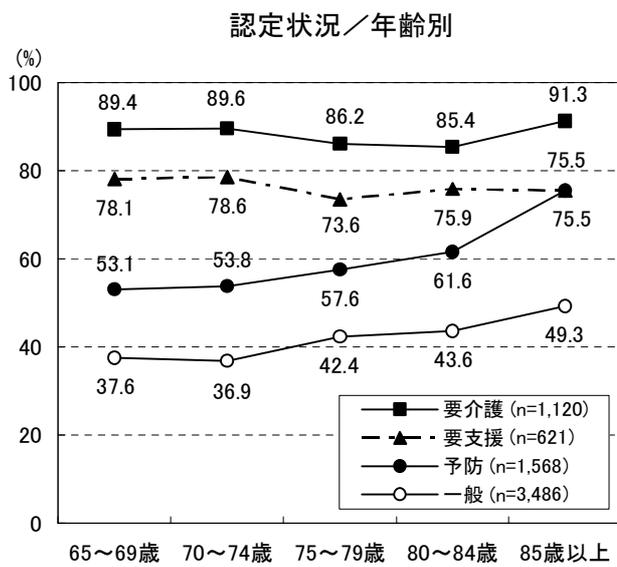
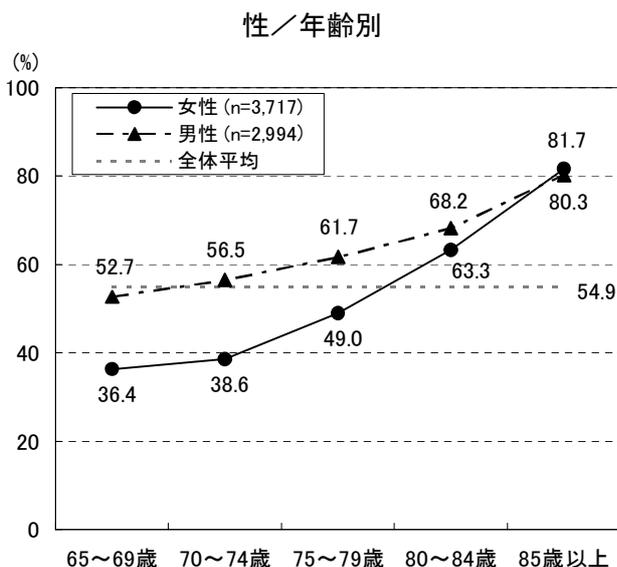
設問(得点カウントする回答)	非認定者 (n=5,054)		認定者 (n=1,741)		差
	一般 (n=3,486)	二次予防 (n=1,568)	要支援 (n=621)	要介護 (n=1,120)	
6. Q1 年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか。(はい)	91.3		35.4		55.9
	94.5	84.1	61.5	20.9	
6. Q2 新聞を読んでいますか。(はい)	89.9		53.6		36.3
	92.4	84.3	74.4	42.1	
6. Q3 本や雑誌を読んでいますか。(はい)	82.6		40.8		41.8
	86.3	74.4	59.4	30.5	
6. Q4 健康についての記事や番組に関心がありますか。(はい)	93.0		63.4		29.6
	93.8	91.1	86.6	50.5	

(2) 社会的役割

① 該当状況

○老研式活動能力指標には、高齢者の社会活動に関する設問が4問設けられ、「社会的役割」として尺度化されている(Ⅱ 6. Q5・6・8・9)。
 ○評価は、知的能動性と同様に4点満点で評価し、4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」と評価している。
 ○3点以下を低下者とした評価結果をみると、男性の方が低下者割合が高くなっている。
 ○低下者割合が最も高いのは要介護認定者で、次いで要支援認定者、二次予防対象者、一般高齢者の順となっている。

<図表> 該当者割合



② 回答状況

<図表> 回答結果

単位: %

設問(得点カウントする回答)	非認定者 (n=5,054)		認定者 (n=1,741)		差
	一般 (n=3,486)	二次予防 (n=1,568)	要支援 (n=621)	要介護 (n=1,120)	
6. Q5 友人の家を訪ねていますか。(はい)	58.2		12.5		45.7
	63.1	47.3	21.7	7.4	
6. Q6 家族や友人の相談にのっていますか。(はい)	81.1		30.7		50.4
	85.9	70.3	44.0	23.4	
6. Q8 病人を見舞うことができますか。(はい)	92.6		29.7		62.9
	95.5	86.3	48.5	19.3	
6. Q9 若い人に自分から話しかけることがありますか。(はい)	80.2		50.1		30.1
	84.0	71.7	65.1	41.8	

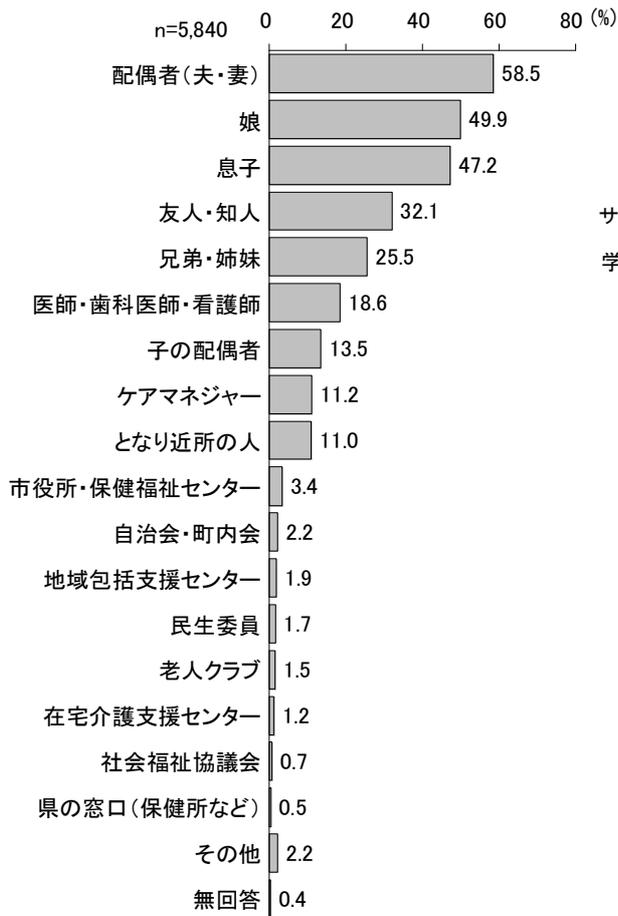
<関連設問>

6. Q7 何かあったときに家族や友人・知人などに相談していますか。(はい)	87.8		77.1		10.7
	88.5	86.3	88.1	71.1	
6. Q12 地域活動等に参加していますか。(5. ボランティア活動)	8.6		1.2		7.4
	9.7	6.3	1.8	0.9	

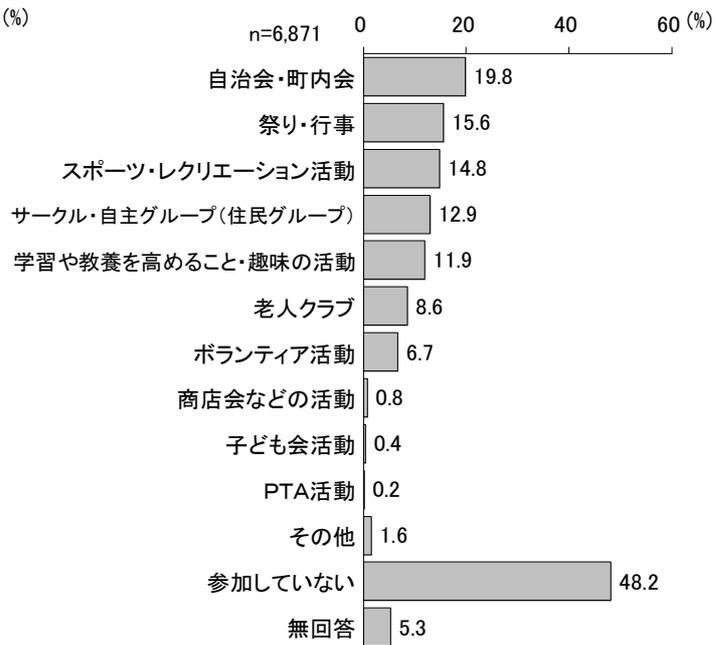
③相談相手・地域活動

- 高齢者の相談相手を、「Ⅱ 6. Q 7-1 何かあったときに、家族や友人・知人などに相談をしていますか」との設問に「はい」と回答した方についてみると、「配偶者（夫・妻）」が58.5%で最も高く、次いで「娘」が49.9%、「息子」が47.2%などとなっている。
- 参加している地域活動としては、「参加していない」が48.2%で最も高くなっている。参加している中では、「自治会・町内会」が19.8%、「祭り・行事」が15.6%、「スポーツ・レクリエーション活動」が14.8%などとなっている。

<図表>相談相手



<図表>参加している地域活動



Ⅲ. 健康・疾病

1 疾病

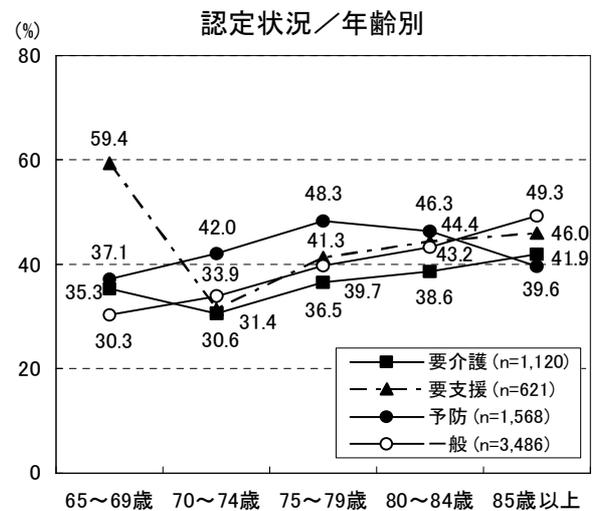
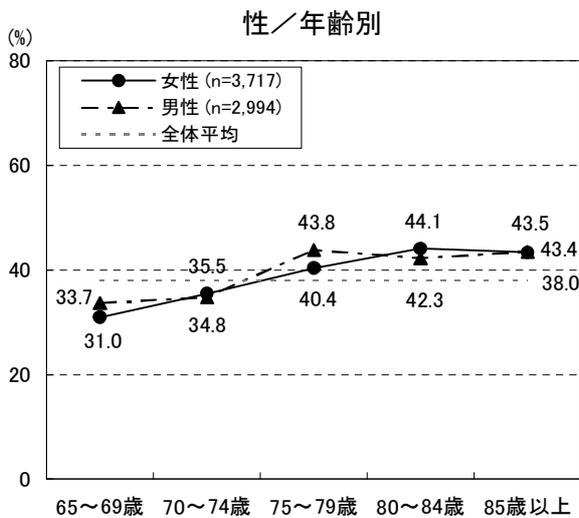
(1) 高血圧

◎既往率

○現在治療中とする病気で最も多いのは、「高血圧」（全体38.0%、男性38.1%、女性37.7%）で、男性の方が女性よりも高くなっている。性／年齢別で見ると、おおむね年齢が上がるほど高くなっており、性別による差は少なくなっている。

○認定状況別で見ると、「高血圧」の既往率は、全体で要支援認定者が44.0%、二次予防対象者が42.8%、要介護認定者が37.9%、一般高齢者が34.8%の順となっている。

<図表> 既往率



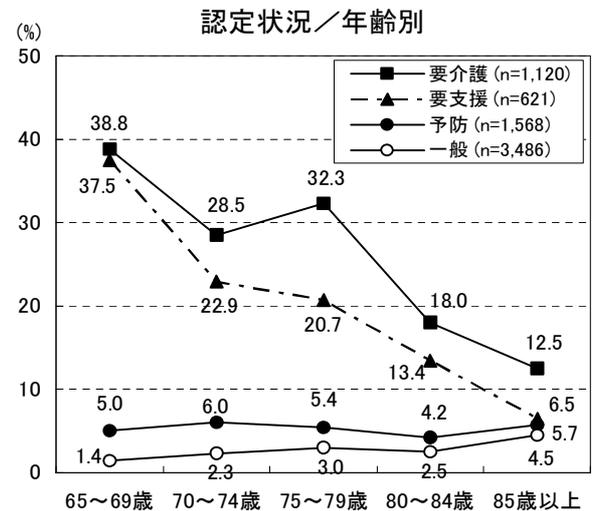
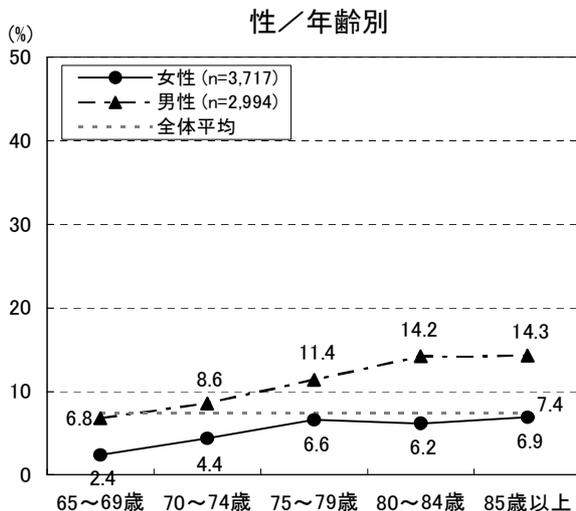
(2) 脳卒中

◎既往率

○要介護の主原因となる「脳卒中」については、全体で7.4%（男性9.8%、女性4.9%）となっており、男性の方が女性よりも高くなっている。性／年齢別で見ると、男性の80~84歳、85歳以上で14.2%、14.3%と高くなっている。

○認定状況別で見ると、「脳卒中」の既往率は、全体で要介護認定者が22.1%、要支援認定者が15.1%、二次予防対象者が5.3%、一般高齢者が2.1%の順となっている。

<図表> 既往率



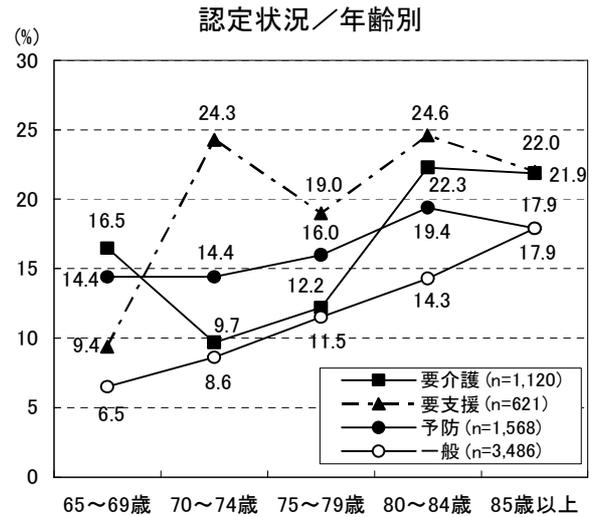
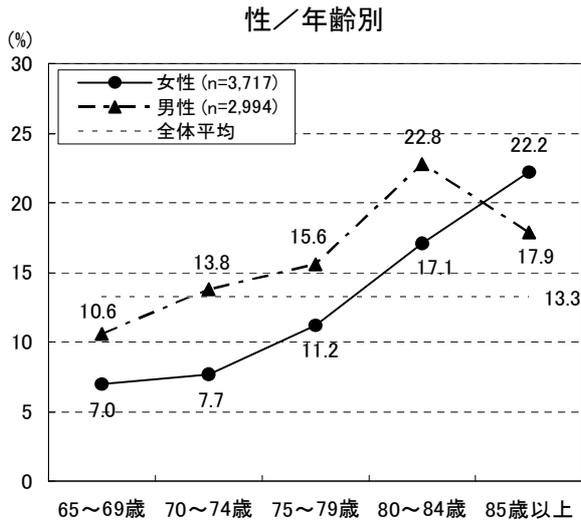
(3) 心臓病

◎既往率

○内蔵疾患で要介護の原因となる「心臓病」については、既往率は全体で13.3%（男性14.6%、女性11.9%）となっており、男性の方が女性よりも高くなっている。性/年齢別でみると、おおむね年齢が上がるほど高くなっているが、男性は85歳以上で低下し、女性が男性よりも高くなっている。

○認定状況別でみると、「心臓病」の既往率は、全体で要支援認定者が21.7%、要介護認定者が18.3%、二次予防対象者が15.6%、一般高齢者が9.1%の順となっている。これを年齢別でみると、一般高齢者では年齢が上がるほど高くなっている。

<図表> 既往率



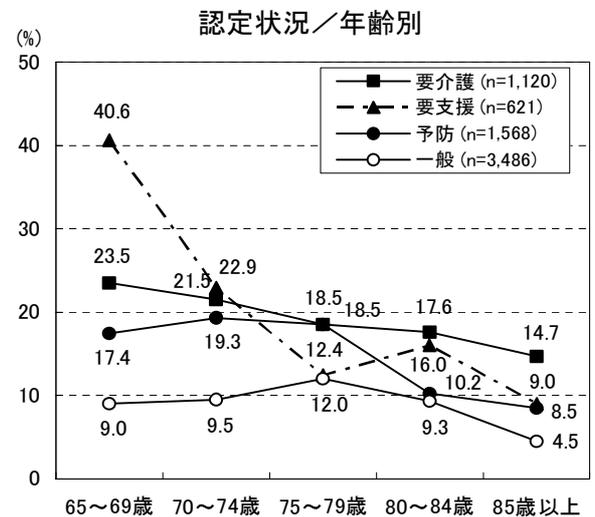
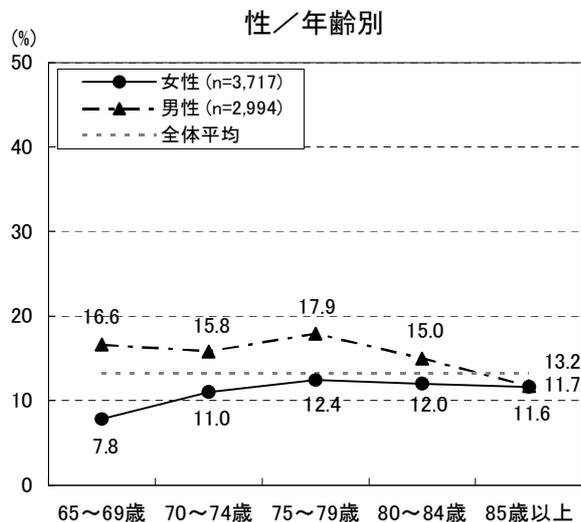
(4) 糖尿病

◎既往率

○同じく内蔵疾患で要介護の原因となる「糖尿病」については、既往率は全体で13.2%（男性16.2%、女性10.6%）となっており、男性の方が女性よりも高くなっている。性/年齢別でみると、男性の75~79歳で17.9%と比較的高くなっている。

○認定状況別でみると、「糖尿病」の既往率は、全体で要介護認定者が17.8%、二次予防対象者が16.5%、要支援認定者が15.1%、一般高齢者が9.7%の順となっている。これを年齢別でみると、要支援認定者の65~69歳で40.6%と特に高くなっている。

<図表> 既往率

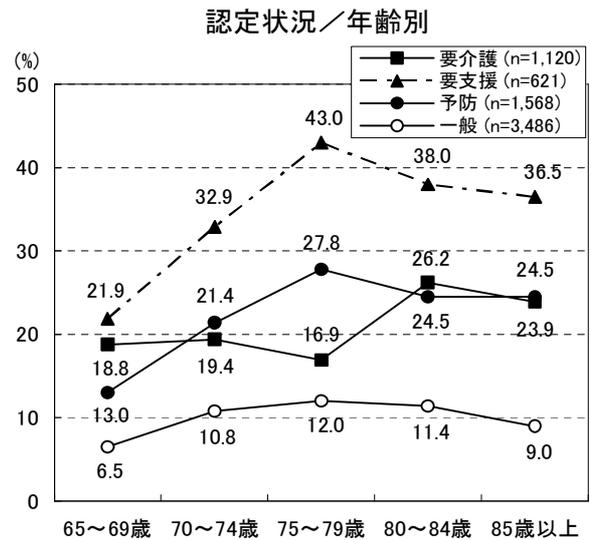
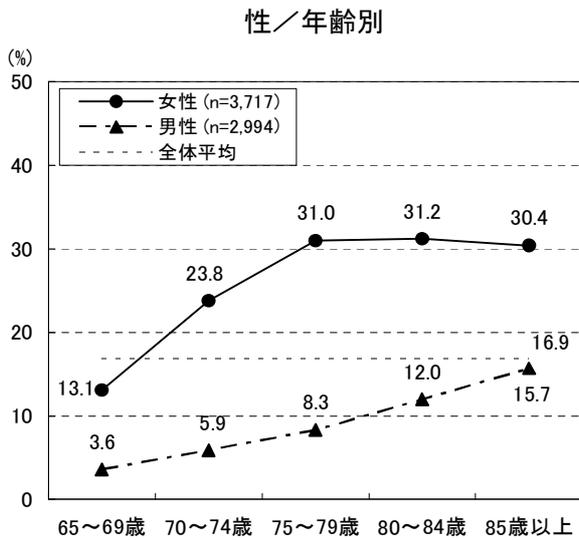


(5) 筋骨格系疾患

◎既往率

- 要介護原因となる関節リュウマチを含む「筋骨格系疾患」については、全体では16.9%（男性7.2%、女性24.4%）となっており、女性の方が男性よりも高く、女性の75歳以上で約30%となっている。
- 認定状況別でみると、「筋骨格系疾患」の既往率は、全体で要支援認定者が36.9%、要介護認定者が22.2%、二次予防対象者が21.4%、一般高齢者が9.4%の順となっている。これを年齢別でみると、要支援認定者の75～79歳で43.0%と特に高くなっている。

<図表> 既往率

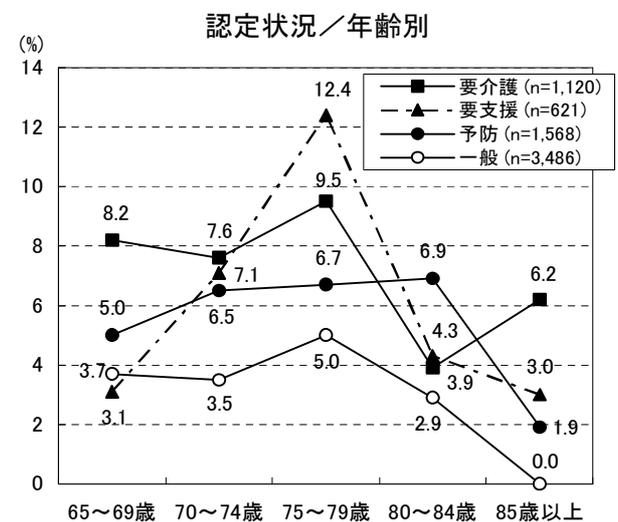
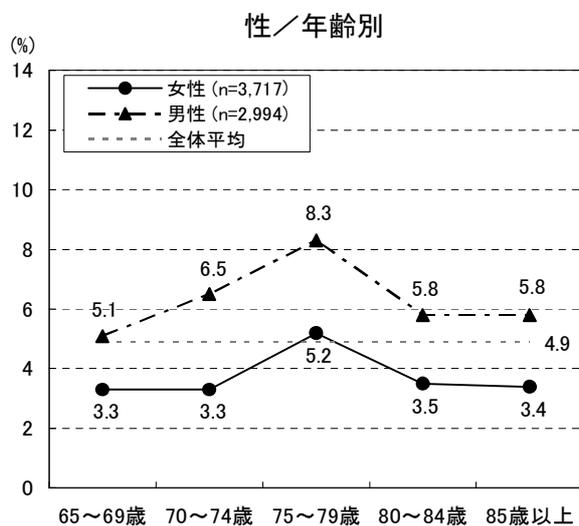


(6) がん

◎既往率

- 要介護原因にもなる「がん（新生物）」については、全体で4.9%（男性6.4%、女性3.7%）となっており、男性の方が女性よりも高くなっている。性／年齢別でみると、男女とも75～79歳で既往率が最も高くなっている。
- 認定状況別でみると、「がん（新生物）」の既往率は、全体で要介護認定者が6.5%、二次予防対象者が5.9%、要支援認定者が5.6%、一般高齢者が3.7%の順となっている。これを年齢別でみると、要支援認定者の75～79歳で12.4%と特に高くなっている。

<図表> 既往率

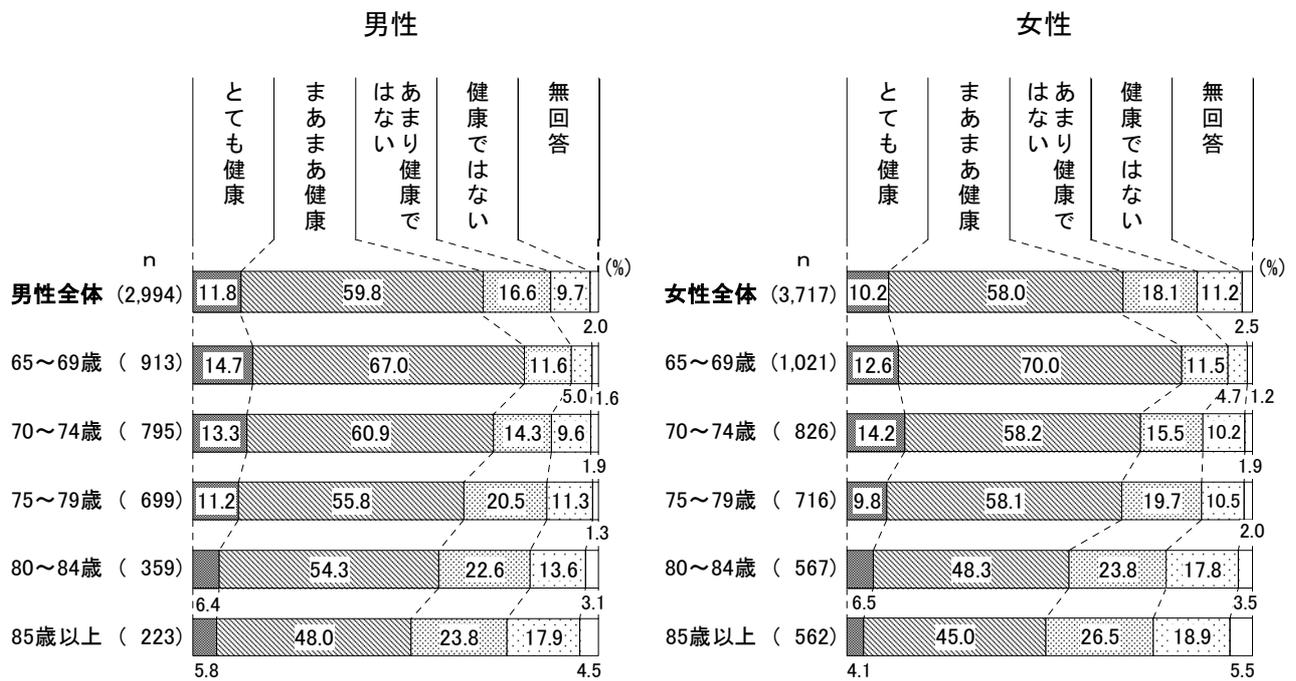


2 主観的健康感

①回答結果

- 高齢者のQOL（生活の質）の指標ともなっている主観的健康感に関する回答結果をみると、全体では「（まあまあ・とても）健康」とする肯定的な回答（健康群）が69.3%、「（あまり）健康ではない」とする否定的回答（不健康群）が28.3%となっている。
- これを性/年齢別でみると、男性全体と女性全体では特に大きな違いはみられない。男女とも「（まあまあ・とても）健康」とする肯定的な回答（健康群）が、年齢が上がるほど低くなっている。一方、「（あまり）健康ではない」とする否定的回答（不健康群）は、男女とも年齢が上がるほど高くなっており、男性の85歳以上で41.7%、女性の80～84歳で41.6%、85歳以上で45.4%と高い。

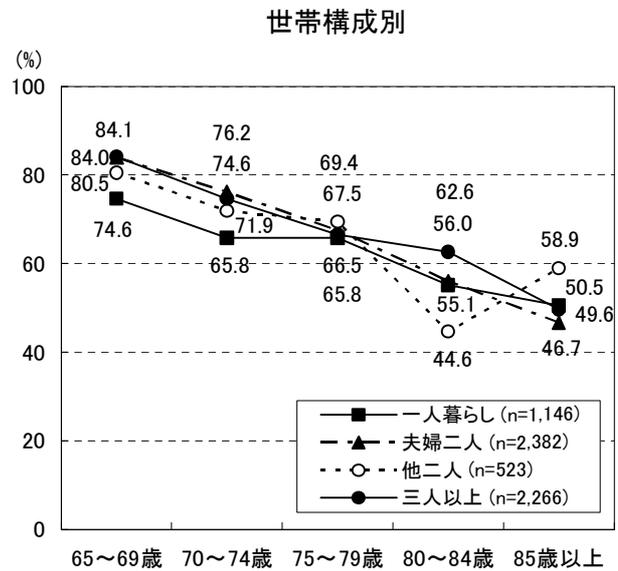
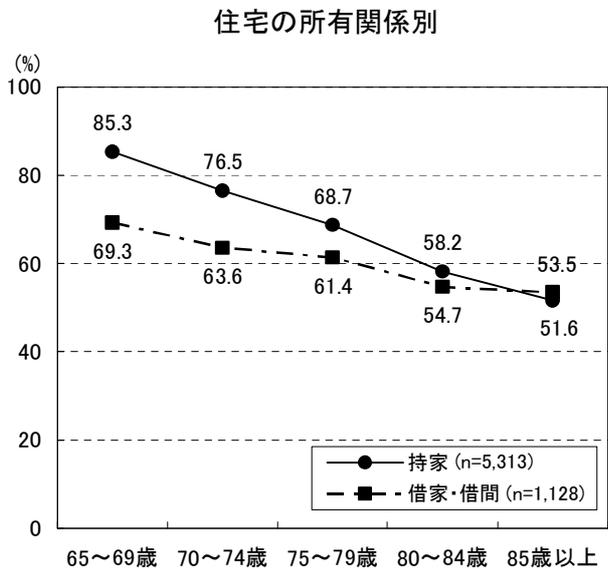
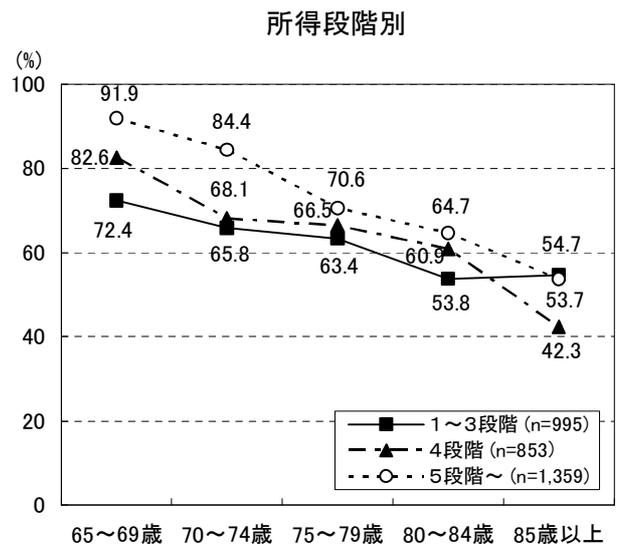
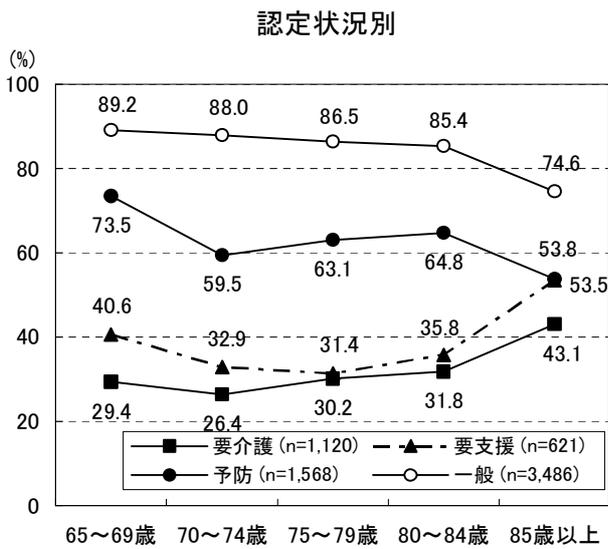
<図表> 回答結果



②属性別の状況

- 主観的健康感について肯定的な回答をした健康群の割合を認定状況別でみると、一般高齢者が最も高く、次いで二次予防対象者、要支援認定者、要介護認定者の順となっており、要介護認定者と要支援認定者の差は小さくなっている。また、要介護認定者と要支援認定者は、75歳以上では年齢が上がるほど健康群の割合も高くなる傾向があり、85歳以上では要支援認定者と二次予防対象者がほぼ同じ割合となっている。
- 所得段階別では5段階以上で、住宅の所有関係別では持家で、世帯構成別では夫婦二人暮らしの世帯で、それぞれ健康群の割合が高くなっている。

<図表>健康群の割合



③関連設問への回答状況

○主観的健康感に関連する各設問に対する回答（肯定的な回答の割合）を、健康群と不健康群別にみると、両者で差が大きいのは、Ⅱ 7. Q4・10もしくは11・12もしくは13などとなっており、服薬状況や抑うつ感が主観的健康感と関連していることがうかがえる。

＜図表＞関連設問への回答結果

単位：％

設問(肯定的な回答)	健康群 (n=4,759)		不健康群 (n=1,947)		差
	とても健康 (n=741)	まあまあ健康 (n=4,018)	あまり健康でない (n=1,205)	健康ではない (n=742)	
F8 現在の暮らしの状況を経済的にみて、どう感じていますか。(ややゆとりがある、ゆとりがある)	47.4		28.9		18.5
F9	54.4	46.1	30.7	25.9	
F6 現在、収入のある仕事をしていますか。(はい)	22.0		7.0		15.0
F8	30.5	20.4	7.6	6.1	
6. Q4 健康についての記事や番組に関心がありますか。(はい)	89.9		76.9		13.0
	89.7	89.9	82.3	68.1	
6. Q10 趣味はありますか。(はい)	83.1		57.7		25.4
	89.1	82.1	64.0	47.6	
6. Q11 生きがいはありますか。(はい)	84.9		54.0		30.9
	92.2	83.6	62.2	40.7	
7. Q2 1年に1回以上、健康診査を受けていますか。(はい)	78.5		72.8		5.7
	77.1	78.7	75.3	68.9	
7. Q4 現在、医師の処方した薬を何種類飲んでいきますか。(3種類以下)	69.0		29.0		40.0
	81.5	66.7	35.1	19.1	
7. Q5 現在、病院・医院(診療所・クリニック)に通院していますか。(いいえ)	23.2		7.5		15.7
	39.9	20.1	6.8	8.6	
7. Q6 お酒は飲みますか。	56.8		77.3		-20.5
7. Q7 (ほとんど飲まない、もともと飲まない)	50.9	57.9	73.9	82.9	
7. Q7 タバコは吸っていますか。	87.0		89.5		-2.5
7. Q8 (吸っていたがやめた、もともと吸っていない)	86.6	87.1	89.8	89.1	
7. Q8 ここ2週間、毎日の生活に充実感がない。(いいえ)	78.8		48.7		30.1
7. Q9	83.9	77.9	55.4	37.9	
7. Q9 ここ2週間、これまで楽しんでやれていたことが楽し	87.3		58.5		28.8
7. Q10 めなくなった。(いいえ)	91.0	86.7	66.6	45.4	
7. Q10 ここ2週間、以前は楽にできたことが、今ではおっく	81.1		44.1		37.0
7. Q11 うに感じられる。(いいえ)	90.1	79.4	50.2	34.1	
7. Q11 ここ2週間、自分が役に立つ人間だと思えない。	80.8		47.6		33.2
7. Q12 (いいえ)	86.2	79.8	53.9	37.5	
7. Q12 ここ2週間、わけもなく疲れたような感じがする。	83.7		45.6		38.1
7. Q13 (いいえ)	91.8	82.2	51.1	36.5	

※問番号は上段が一般高齢者調査、下段が要支援・要介護認定者調査

IV. 介護

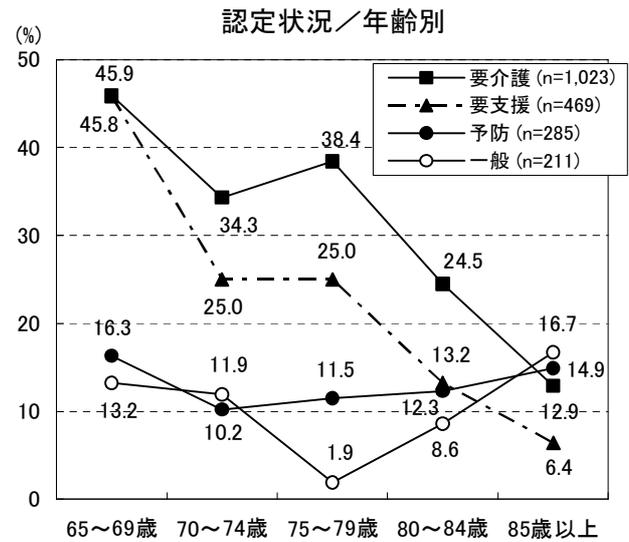
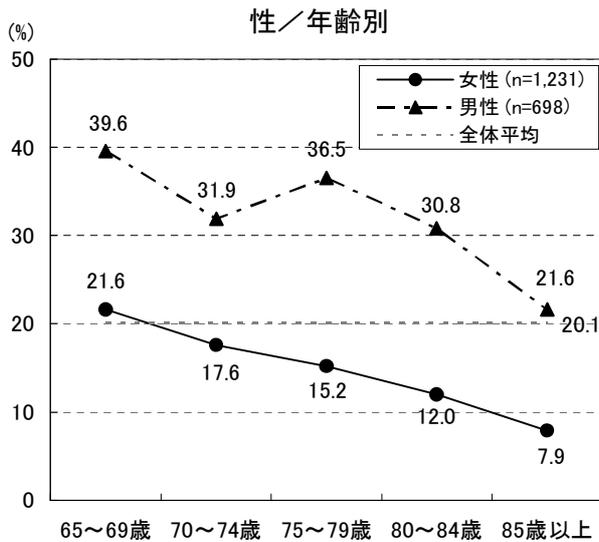
1 既往症

(1) 脳卒中

◎既往率

- 「脳卒中」について、「これまでにかった」とする回答の割合（既往率）をみると、全体で20.1%（男性31.9%、女性12.6%）と、男性の方が女性よりも高くなっている。性／年齢別にみると、男女とも年齢が上がるほど既往率が低くなる傾向にあり、いずれの年齢でも男性が女性を上回っている。
- 認定状況別でみると、既往率は85歳以上を除いた年齢で要介護認定者が最も高くなっている。

<図表> 既往率

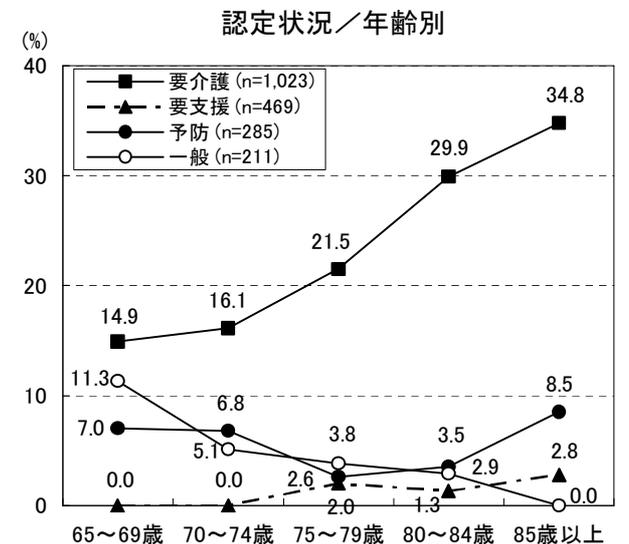
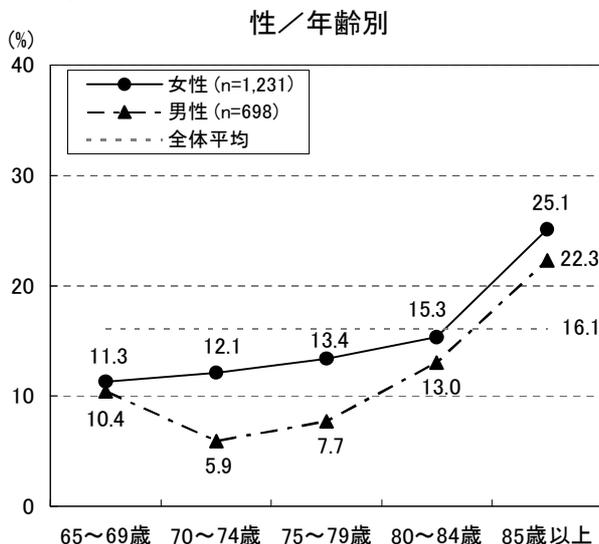


(2) 認知症

◎既往率

- 「認知症」について、「これまでにかった」とする回答の割合（既往率）をみると、全体で16.1%（男性11.7%、女性17.5%）と、男性の方が女性よりも高くなっている。性／年齢別にみると、男女とも年齢が上がるほど既往率が高くなる傾向にあり、いずれの年齢でも女性が男性を上回っている。
- 認定状況別でみると、要介護認定者は年齢が上がるに従って既往率が急激に高くなっており、年齢が上がるとともに認知症を要介護の原因とする認定者の割合が増えていることがわかる。

<図表> 既往率

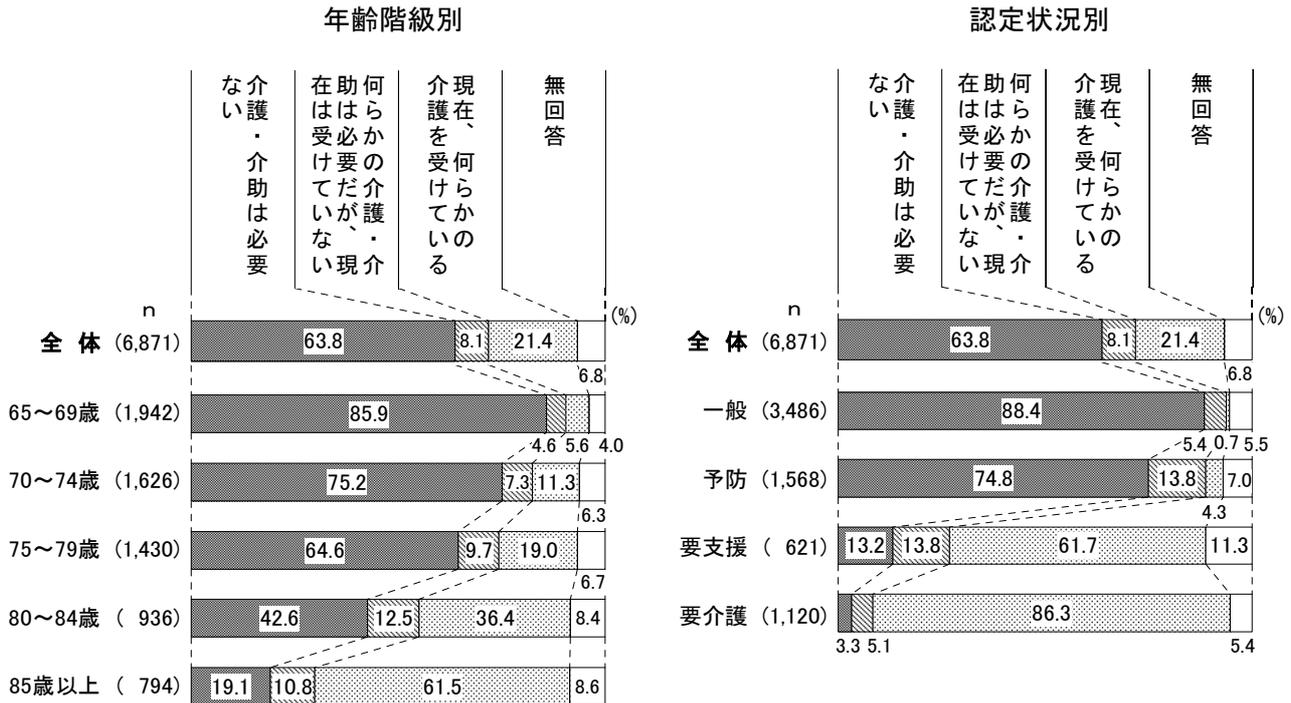


2 介護の状況

(1) 介護の必要性

○介護の必要性に関する設問（I F 4およびF 6）に対する回答をみると、年齢が上がるほど「介護を受けている」、「必要だが現在は受けていない」の割合が高くなっている。
 ○認定状況別にみると、要介護認定者の86.3%、要支援認定者の61.7%が「介護を受けている」と回答している一方、二次予防対象者では4.3%が「介護を受けている」、また13.8%が「必要だが現在は受けていない」と回答している。

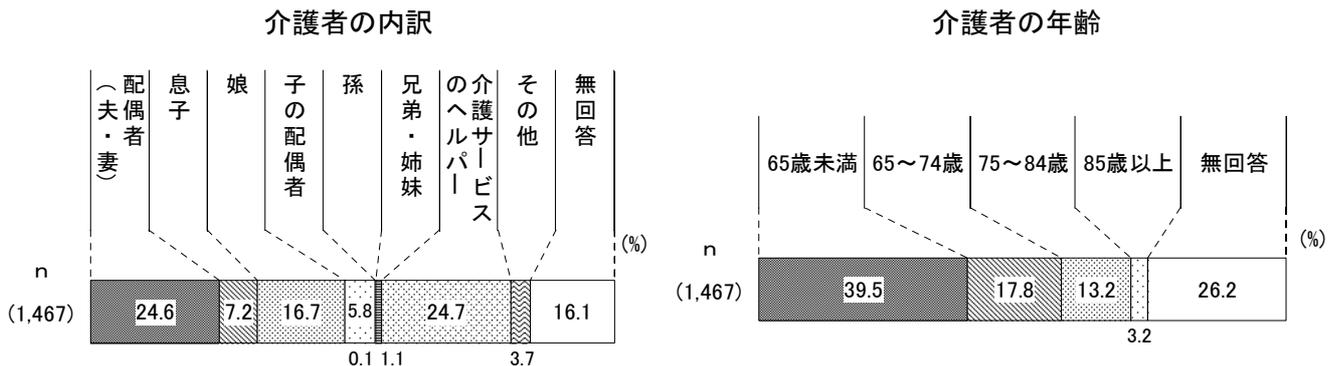
<図表>介護の必要性



(2) 介護者

○I F 4およびF 6で「介護を受けている」と回答した方の介護者は、「介護サービスのヘルパー」が24.7%で最も高く、次いで「配偶者（夫・妻）」が24.6%、「娘」が16.7%などとなっている。
 ○介護者の年齢は、「64歳以下」が39.5%で最も高く、次いで「65～74歳」が17.8%、「75～84歳」が13.2%となっている。「65～74歳」以降を合わせると、いわゆる老々介護は全体の34.2%である。

<図表>介護者



(3) 利用している在宅サービス

○要介護認定者が利用している在宅サービスとしては、「通所介護（デイサービス）」が45.0%で最も多く、「訪問介護」が23.9%、「訪問診療（医師の訪問）」が19.9%などとなっている。

＜図表＞利用している在宅サービス

